

**KITZ**



# *Corporate Report 2017*

コーポレイトレポート



# 今日に貢献する。 明日を創造する。

どこでも安心して水を使うことができる。  
石油・ガスが絶え間なく供給される。  
クリーンな環境で暮らすことができる。  
キッツグループは、水や空気、石油、ガスなど  
流体をコントロールする「バルブ」の製造・販売を通して、  
私達の暮らしや産業に欠かすことのできないライフラインを支え、  
今日のゆたかな社会に貢献しています。  
さらに、流体制御のプロフェッショナルとして、  
お客様の期待を超える商品・サービスで  
そのフィールドと可能性を世界に広げ、  
明日のゆたかな社会を創造していきたいと考えています。





# Contents

## Page 03

### キッツグループの価値創造プロセス

- 05 キッツグループの成長の軌跡
- 07 数字で見るキッツグループ

## Page 09

### ステークホルダーの皆様へ

- 09 社長メッセージ
- 13 財務担当役員メッセージ



## Page 33

### 人財の力

- 33 人事担当役員メッセージ
- 35 多様な人財がキッツグループを支える

## Page 37

### キッツグループのESG

- 38 経営体制
- 41 コーポレート・ガバナンス
- 43 社外取締役メッセージ
- 44 内部統制システム／コンプライアンスの推進及びリスクマネジメント
- 45 環境活動
- 47 ステークホルダーとの対話
- 49 社会貢献活動

## Page 51

### データ編

- 51 主要財務データ
- 57 グループネットワーク
- 61 会社概要／株式情報
- 62 INFORMATION



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人財の力

キッツグループのESG

データ編

#### 編集方針

株主・投資家をはじめとするステークホルダーの皆様へ、キッツグループの持続的な成長に向けた取り組みをお伝えするため、コーポレートレポート2017を発行しました。国際統合報告評議会(IIRC)が提示するフレームワークを参考にし、短・中・長期の価値創造に関する報告を中心に構成しています。

#### 見直しに関するご注意

このレポートに記載されている将来の計画数値、施策など見直しに関する内容は、現在入手可能な情報に基づき当社が現時点で合理的であると判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績等は、さまざまな要因により見直し等と異なる可能性があります。

# キッツグループの価値創造プロセス

キッツは、健全で透明性の高い経営のもと、グループの強みを活かしたバルブの製造・販売を通して、持続的な企業価値の向上を目指しています。それにより、株主、投資家の皆様をはじめ、お客様、ビジネスパートナー、社員、社会に対してさまざまな形で寄与し、ゆたかな社会づくりに貢献してまいりたいと考えています。

## キッツグループの強み

## 価値創造プロセス



持続的成長を実現する  
経営戦略

P9~14

流体制御のプロとして  
価値を創出する  
バルブ事業

P17~31

**KITZ**

## キッツ宣言

*KITZ' Statement of Corporate Mission*

キッツは、  
創造的かつ質の高い商品・サービスで  
企業価値の持続的な向上を目指し、  
ゆたかな社会づくりに貢献します。

*To contribute to the global prosperity,  
KITZ is dedicated to continually enriching its corporate value  
by offering originality and quality  
in all products and services.*

## 行動指針

*Action Guide*

### Do it **KITZ** Way

- Do it True (誠実・真実)
- Do it Now (スピード・タイムリー)
- Do it New (創造力・チャレンジ)

### 創出価値

健全で透明性の高い  
経営を実現する  
コーポレート・ガバナンス

P37~50

- 水やエネルギーなどの  
安定供給を支え、  
安心して暮らせる環境を創造

- 顧客・サプライヤーの信頼、  
地域社会との共生

- グローバル人財の育成と  
高いモチベーションを保てる  
企業風土の醸成

- 環境負荷を抑えた事業活動と  
環境マネジメント体制の強化

- 持続的な株主価値の向上

活力ある  
企業風土を醸成する  
人財育成

P33~36

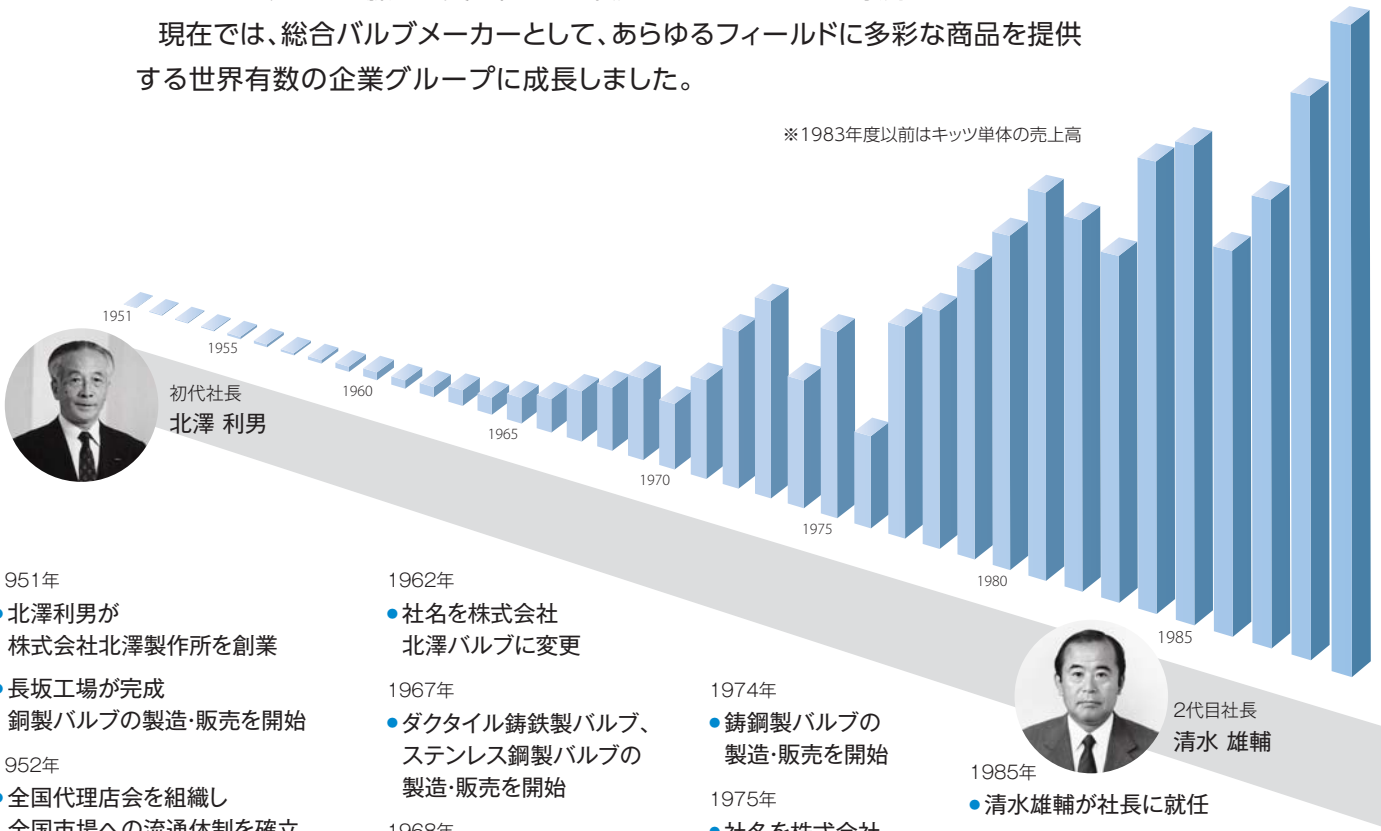


# キッツグループの成長の軌跡

1951年、日本が敗戦の混乱期から高度経済成長時代へと移りつつある中、北澤製作所(現キッツ)が創業しました。創業者 北澤利男(1917~1997年)の理念により、素材からの一貫生産を基本に、鑄造から加工・組立・検査・出荷など全ての工程を社内で行い、さらに、きめ細かい販売サービスやアフターフォローをお客様に提供する体制を築いてまいりました。こうした「より良い品質」へのこだわりが今日まで脈々と受け継がれ、私達キッツグループの源流となっています。

現在では、総合バルブメーカーとして、あらゆるフィールドに多彩な商品を提供する世界有数の企業グループに成長しました。

※1983年度以前はキッツ単体の売上高



1951年

- 北澤利男が株式会社北澤製作所を創業
- 長坂工場が完成  
銅製バルブの製造・販売を開始

1952年

- 全国代理店会を組織し  
全国市場への流通体制を確立

1959年

- 黄銅棒の生産を開始

1962年

- 社名を株式会社北澤バルブに変更

1967年

- ダクタイル鑄鉄製バルブ、ステンレス鋼製バルブの製造・販売を開始

1968年

- バタフライバルブの製造・販売を開始

1969年

- 鑄鉄製バルブの製造・販売を開始

1974年

- 鑄鋼製バルブの製造・販売を開始

1975年

- 社名を株式会社北沢バルブに変更

1977年

- 東京証券取引所市場第二部に上場

1978年

- KITZが商標登録となる

1985年

- 清水雄輔が社長に就任

1989年

- 日本企業で最初に長坂工場と伊那工場が「ISO9001」の認証を取得

1991年

- スペインのボールバルブメーカーISO社(現KITZ Corporation of Europe, S.A.)がキッツグループに入る

## History



1951年  
創業当時の長坂工場。社員12人、企業というより町工場というにふさわしい門出であった。



1962年  
我が国で初めて黄銅鍛造バルブFH、FSの製造・販売を開始。

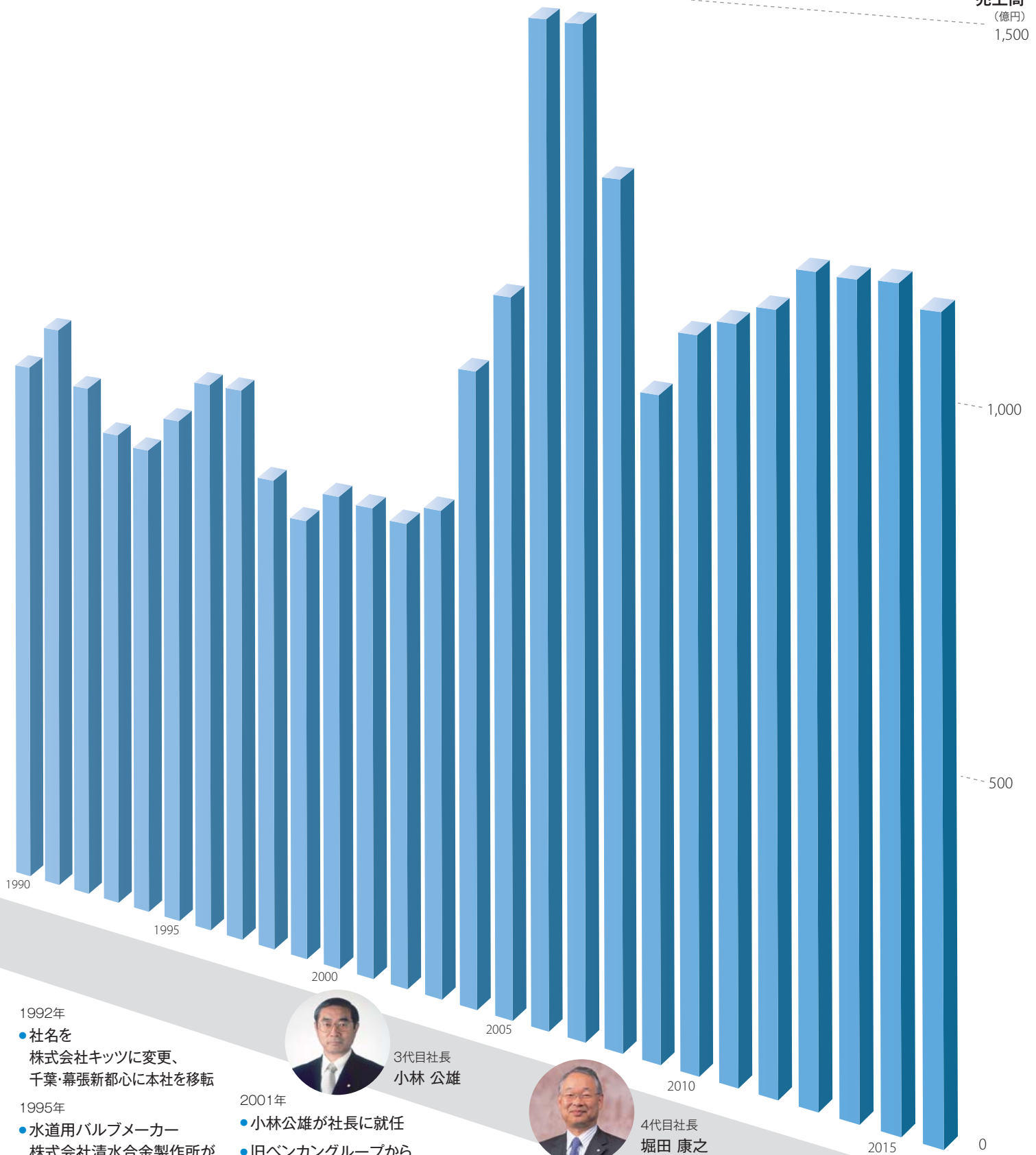


1980年  
青銅製バルブのハンドルデザインを一新、人間工学の観点から握りやすさを追求した「菊ハンドル」を採用。



1984年  
東京証券取引所市場第一部に上場。

売上高  
(億円)  
1,500



1992年  
 ●社名を株式会社キッツに変更、千葉・幕張新都心に本社を移転

1995年  
 ●水道用バルブメーカー株式会社清水合金製作所がキッツグループに入る

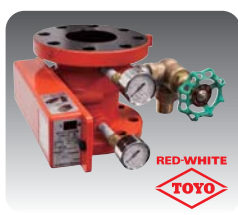


1999年  
 環境配慮型鉛レス快削性黄銅合金・青銅合金「KEEPALLOY (キーパロイ)」を発表。



3代目社長  
小林 公雄

2001年  
 ●小林公雄が社長に就任  
 ●旧ベンカングループから半導体関連事業を譲り受ける



2004年  
 東洋バルブ株式会社がキッツグループに入る。



4代目社長  
堀田 康之

2008年  
 ●堀田康之が社長に就任

2009年  
 ●ドイツのボールバルブメーカー Perrin GmbH がキッツグループに入る

2015年  
 ●インドの工業用バルブメーカー Micro Pneumatics Pvt. Ltd. がキッツグループに入る  
 ●ブラジルの工業用ボールバルブメーカー Metalúrgica Golden Art's Ltda. がキッツグループに入る



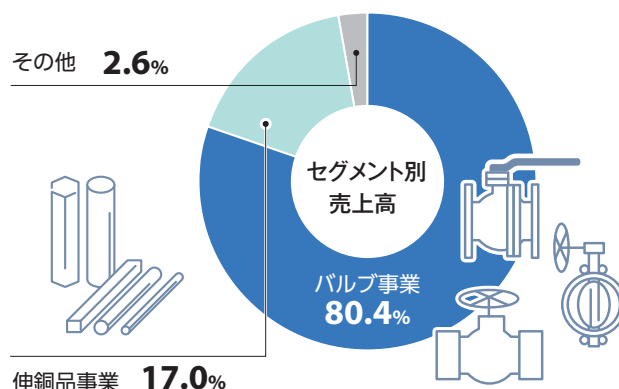
# 数字で見るキッツグループ (2017年3月31日現在)

## 売上高

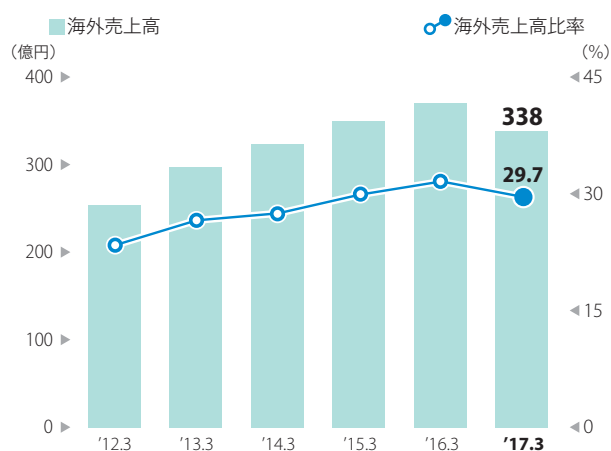
# 1,141 億円

2017年3月期の売上高構成比は、バルブ事業80.4%、伸銅品事業17.0%、その他2.6%となっています。これからもバルブを中心とした流体制御機器の総合メーカーとしてさらなる成長を目指します。

※詳細はP.9「社長メッセージ」をご覧ください。



## 海外売上高比率



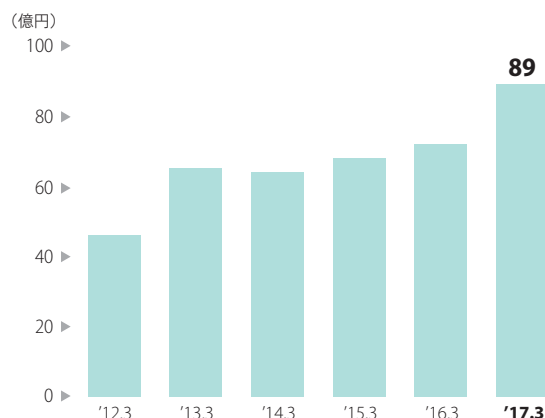
# 29.7%

日本のみならずグローバルに事業を展開してきたキッツグループ。世界の国・地域に商品・サービスを提供しています。さらに海外での売上を伸ばすため、体制強化に取り組んでいます。

## 営業利益

# 89 億円

既存製品に加え、お客様が必要とする製品をいち早く開発し市場に投入するなど、売上の拡大を図るとともに、グローバル調達、内製化、生産性向上などによる製造コスト削減に取り組み、持続的な利益成長を目指しています。





## グローバルネットワーク



# 12カ国

キッツグループの初の海外拠点として、1984年にアメリカに販売会社KITZ Corporation of Americaを設立しました。現在では、世界12カ国に生産と販売の拠点を置き、グローバルなネットワークを構築しています。

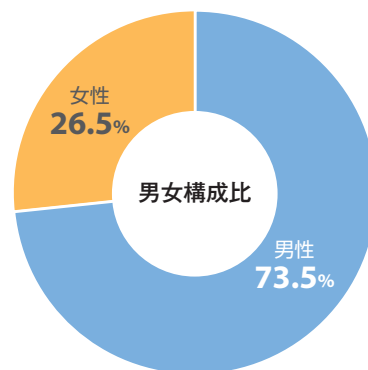
※詳細はP.29「広範で強固な販売ネットワーク」をご覧ください。

## 連結社員数

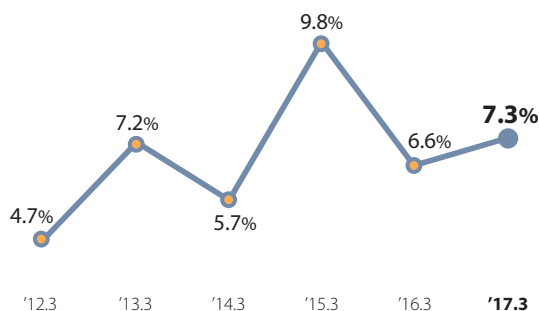
# 4,597人

キッツグループでは、性別や年齢、国籍にかかわらず、多様な人材が活躍しています。企業規模の拡大に伴い、社員数も増加しています。

※詳細はP.33「人事担当役員メッセージ」をご覧ください。



## ROE



# 7.3%

持続的な利益成長を目指す一方、2016年6月から7月にかけて229万85百株、さらに2017年2月から3月にかけて318万8百株の自己株式の取得を行うなど、ROEのさらなる向上に取り組んでいます。

※詳細はP.13「財務担当役員メッセージ」をご覧ください。

## 育児休業取得延べ人数(キッツ単体累計)

# 143人

多くの社員が育児休業を取得し、職場復帰を果たしています。また、育児のための短時間勤務や有給休暇の時間単位での取得など、社員一人ひとりが働きやすい環境づくりを進めています。

※1995年以降の育児休業取得者の延べ人数を表示。



# ステークホルダーの皆様へ

## 社長メッセージ



グループの総力を結集して  
企業価値のさらなる向上を目指します。

堀田 康之

代表取締役社長

### 当期(2016年度)の連結業績の概況

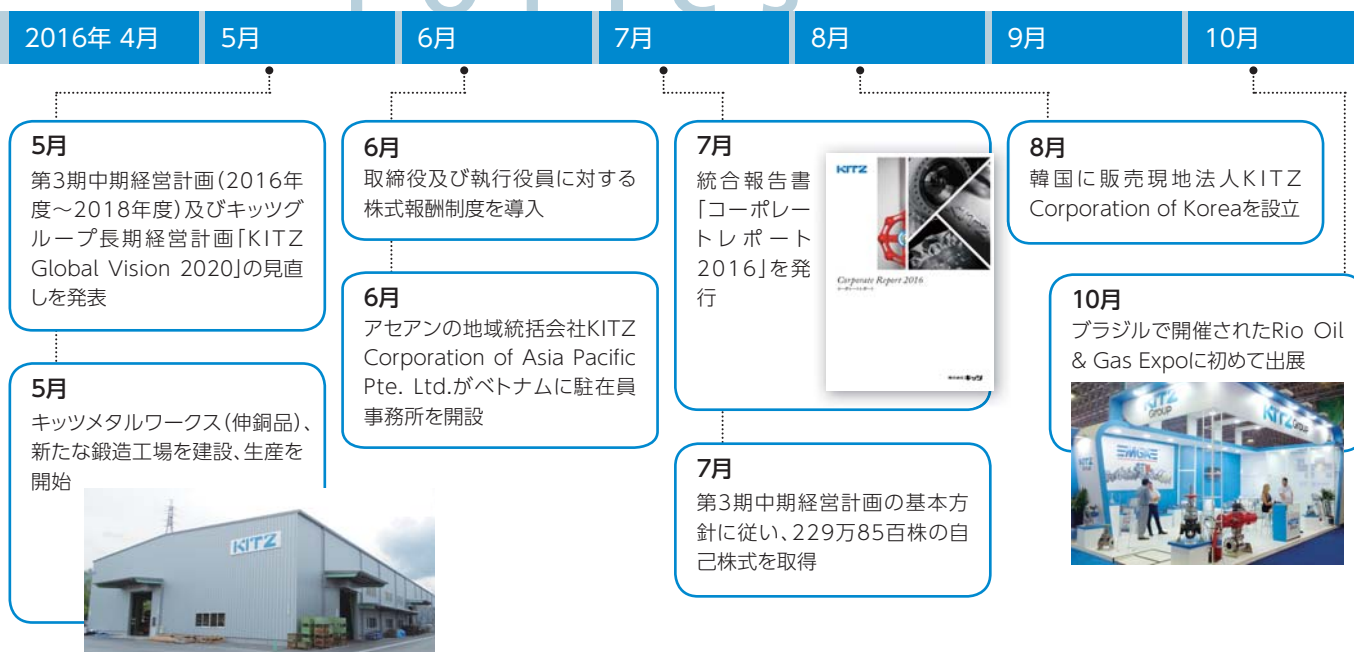
当期の連結売上高は、前期比31億77百万円減の1,141億1百万円となりました。バルブ事業は、国内市場では、既設プラントの定期修理案件への納入の増加や半導体製造設備向けの好調により増加したものの、海外市場において、原油価格の低迷による設備投資の抑制に加え、円高の影響などもあり、前期比18億12百万円減の917億66百万円となりました。

伸銅品事業は、売価に影響を与える原材料相場が前期

と比較して下落した他、販売量の減少もあり、前期比12億24百万円減の193億33百万円となりました。その他(サービス関連の事業)についても、前期比1億39百万円減の30億2百万円となりました。

一方で、営業利益は大幅に増加しました。バルブ事業で、製造コスト削減効果に加え、原材料価格が低位で推移したこと、さらに円高による海外生産品の仕入コストの減少もあり、営業利益は前期比10億59百万円増の114億44百万円となりました。伸銅品事業では、製造ライン改善に

## キッツグループの1年 TOPICS



よる生産性向上に加え、原材料相場が安定的に推移し一定の利幅が確保できたことにより、8億31百万円となり、黒字に転換しました(前期は16百万円の営業損失)。その他では前期比15百万円の減益となりましたが、連結営業利益は、前期比16億83百万円増の89億29百万円、経常利益は、前期比14億98百万円増の87億99百万円となりました。

当期中において、政策保有株式の一部を売却し、20億97百万円の特別利益を計上する一方で、財務内容の健全化を目的として、本社不動産に信託受益権を設定して、その受益権を第三者に譲渡したことなどに伴い、37億56百万円の特別損失を計上しました。さらに、法人税等において、2014年3月期に計上した移転価格税制に基づく調査による更正額7億16百万円について、日米相互協議の終了を受け、6億22百万円の還付を計上しました。これらの結果、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比4億84百万円増の54億円となりました。

### 第3期中期経営計画の進捗と 2017年度の経営計画

最終年度である2018年度の売上高1,200億円、営業利益100億円の数値目標を掲げて、当期より始動した第3期

中期経営計画においては、原油価格の低迷や中国・新興国経済の景気停滞の長期化を織り込み、規模の拡大から確実な利益成長へとその方向を転換しました。2016年度は、前期比では減収となりましたが、営業利益については、大幅な増益となり、第3期中期経営計画に対しては、売上高・利益の初年度の数値目標をそれぞれ上回る業績となりました。

2017年度においても、海外市場には明るい兆しは見られません。国内市場は、年度の後半から首都圏の再開発案件向けの需要が上向いてくるものの、前期からの大きな環境の変化を期待することは難しいと思っています。

売上を伸ばすことが難しい状況が継続する中、ここ数年は増益基調を維持することができており、2016年度の営業利益も、第3期中期経営計画の2017年度の計画値に迫る実績となったことから、営業利益については、第3期中期経営計画の最終年度である2018年度計画を1年前倒しで達成したいと考えています。原材料相場が上昇しており、バルブ事業にとっては利益の押し下げ要因となりますが、本年5月に実施した一部製品の価格改定(値上げ)の効果に加え、さらなる製造コスト削減に取り組み、営業利益100億円の達成を目指してまいります。





## 長期経営計画「KITZ Global Vision 2020」 達成に向けて

長期経営計画「KITZ Global Vision 2020」では、最終年度である2020年度に過去最高益を更新する営業利益125億円(過去最高益:2007年度 116億円)を数値目標として掲げています。これを達成するために、第3期中期経営計画では、キッツグループの強みを活かせる「建築設備」「石油化学・一般化学」「クリーンエネルギー(水素・LNG)」を重点市場分野と定め、経営資源を集中して投入しています。

既存製品の拡販が厳しい環境において、売上を拡大していくためには、お客様が必要とする製品をいち早く市場へ投入していく必要があります。そのために、2016年4月に、新組織「プロダクトマネジメントセンター(以下、PMC)」を設置しました。PMCには、重点市場と定めた3つのそれぞれの分野を担当する事業推進部門を設けています。各重点市場に向けた、戦略に基づく製品群の市場調査から開発、市場投入までを一気通貫で迅速に行う、プロダクトマネジメントの実践組織として活動を推進しています。

お客様のニーズに合致した新製品の開発をさらに力強く進めていく方針です。さらに、本年4月には、PMCにFB(Future Business)企画部を新設しました。FB企画部は、中長期的なマーケティング、新製品企画及び基礎研究を含む研究開発のための新部門です。キッツグループが持つ強みを活かし、他の新しい要素も取り入れて、これから伸びていく分野にどのような形で参入できるかを検討してまいります。当社の強みである高品質のモノづくりだけでなく、ソリューションやサービスの提供までを視野に入れた取り組みにも、今後、当社の人財やリソースを投入していきたいと考えています。

伸銅品事業については、キッツグループの黄銅切削・鍛造工程の生産統合のため、株式会社キッツメタルワークスに新しい鍛造工場を建設し、2016年5月に操業を開始しました。また、さらなる生産効率向上のため、老朽化した既設設備の更新及び製造ラインの統廃合を進めています。複数年にわたる大型設備投資となりますが、中長期的な視点から、着実にプロジェクトを進めてまいります。

### 第3期中期経営計画(2016年度～2018年度)の数値目標

	2016年度		2017年度		2018年度
	第3期中期経営計画 (2016年5月公表)	実績	第3期中期経営計画 (2016年5月公表)	経営計画 (2017年5月公表)	第3期中期経営計画 (2016年5月公表)
売上高	▶ 1,115億円	▶ 1,141億円	▶ 1,150億円	▶ 1,170億円	▶ 1,200億円
営業利益	▶ 80億円	▶ 89億円	▶ 90億円	▶ 100億円	▶ 100億円
経常利益	▶ 77億円	▶ 87億円	▶ 87億円	▶ 97億円	▶ 97億円
親会社株主に帰属する当期純利益	▶ 50億円	▶ 54億円	▶ 57億円	▶ 63億円	▶ 63億円
営業利益率	▶ 7.2%	▶ 7.8%	▶ 7.8%	▶ 8.5%	▶ 8.3%
海外売上高比率	▶ 31.8%	▶ 29.7%	▶ 32.7%	▶ 29.1%	▶ 34.2%
ROE	▶ 6.6%	▶ 7.3%	▶ 7.2%	▶ 8.5%	▶ 7.7%
自己資本比率	▶ 63.9%	▶ 61.9%	▶ 64.7%	▶ 64.1%	▶ 64.0%
<b>○セグメント別売上高</b>					
バルブ事業	▶ 920億円	▶ 917億円	▶ 950億円	▶ 940億円	▶ 1,000億円
伸銅品事業	▶ 164億円	▶ 193億円	▶ 165億円	▶ 200億円	▶ 165億円
その他	▶ 31億円	▶ 30億円	▶ 35億円	▶ 30億円	▶ 35億円
<b>○セグメント別営業利益</b>					
バルブ事業	▶ 110億円	▶ 114億円	▶ 119億円	▶ 130億円	▶ 131億円
伸銅品事業	▶ 2億円	▶ 8億円	▶ 3億円	▶ 4億円	▶ 1億円
その他	▶ 1億円	▶ 0.5億円	▶ 1億円	▶ 0.5億円	▶ 1億円

## コーポレート・ガバナンスの充実

キッツは、創造的かつ質の高い商品・サービスの提供により持続的に企業価値の向上を図ることを企業理念に掲げ、社会的に責任ある企業として、全てのステークホルダーに配慮した経営の実現に取り組んでいます。そして、健全で透明性の高い経営が実現できるよう、さまざまな施策を講じて、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

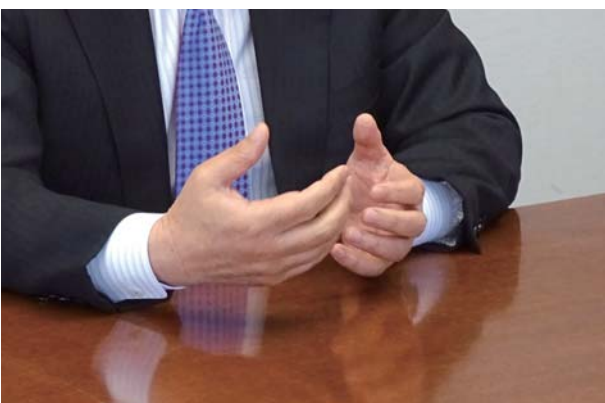
当期は、取締役及び監査役を対象とする取締役会の実効性に関するアンケート調査を実施し、その調査結果を踏まえて取締役会の実効性向上のための課題について議論を行いました。また、過半数を社外取締役で構成され、役員報酬に関する方針及びその内容についての審議を行う「報酬委員会」と、過半数を社外取締役で構成され、多角的な観点から取締役、監査役及び執行役員候補者を選定する「指名委員会」をそれぞれ設置しました。

また中長期的な業績向上と企業価値増大への貢献意識を高めることを目的として、取締役(社外取締役を除く)及び執行役員に対する株式報酬制度を当期より導入しています。

さらに、2017年6月より社外取締役を1名増員し、取締役6名中、半数の3名が社外取締役となりました。キッツは「社外役員の独立性の判断に関する基準」を定めており、社外取締役の全員がその基準を満たすとともに、東京証券取引所の「社外役員独立性判断基準」を満たしており、東京証券取引所に独立役員の届け出を行っています。

## 真のグローバル企業への進化

キッツは1951年に、株式会社北澤製作所としてスタートし、2016年に創業65年の節目を迎えました。創業当時の



社員は12名。企業というより町工場というにふさわしい門出でしたが、今日では連結子会社33社、社員数はグループで4,500名を超えるまでに成長しました。また、世界12カ国に拠点を置き、日本以外の国で勤務する社員はグループ全体の50%を超えるなど、グローバル化も大幅に進みました。さらなる「真のグローバル企業への進化」に向けて、世界を視野に入れた思考ができる人財の育成に努めると同時に、性別、年齢、国籍にとらわれることなく、社員一人ひとりが最大限に力を発揮することができる環境づくりを進めています。また、女性活躍の推進については、キッツグループが末永く、かつ発展的に存続するために重要なことだと考えています。女性社員が充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たして企業人としてのキャリアを積むとともに、子育てなどライフステージの変化に応じて、多様な生き方を選択・実現できるよう、社内体制を整えてまいります。

## 新たな歴史に向かって

この65周年という節目の年に、国内の全事業所で記念行事を開催しました。創業当時から現在までの会社のあゆみを振り返り、改めて成長の軌跡を辿るとともに、社員相互の連帯感とコミュニケーションを深めることができました。次の節目である創業70周年、また、これから先、10年、20年と続く未来に向けて、心をひとつにスタートを切ることができたと思っています。

65年の歴史を大切に守りつつ、さらに成長を続け、新たなキッツの歴史を創ってまいります。皆様からの変わらぬご支援をお願いいたします。



継続的な利益成長と資金効率の向上を図り  
財務体質の強化と株主還元の充実の  
両立を目指します。

葛城 健志

執行役員 管理本部副本部長

### 事業体質の変革と経営資源の集中

事業競争のグローバル化が進む中、キッツグループは、バルブ事業及びバルブの素材である伸銅品事業に経営資源を集中することとし、事業の再編を進めています。

近年では、フィットネス事業、保険代理店事業を外部に譲渡する一方で、国内生産拠点の再編を行った他、インド及びブラジルのバルブメーカーをM&Aによりグループに加え、製造コストの削減、グローバルな市場開拓と最適地生産を推進しています。また、フィルター事業拡大に向け、韓国の中空糸膜メーカーをグループ会社とするなど、主要事業の周辺領域での事業拡大にも注力しています。

なお、設備投資、M&A資金については、営業キャッシュ・フローの範囲内で行うことを基本としていますが、多額のM&Aなどに際しての資金調達については、その時点における最適な資金調達も検討しています。当期はバルブ事業及び伸銅品事業に係る設備投資に加え、技術情報管理システムの開発や基幹システムの構築等の支出がありましたが、単年度の営業キャッシュ・フローでまかなうことができました。

### グローバル経営管理体制の確立

キッツグループは、長期経営計画「KITZ Global Vision 2020」に、「真のグローバル企業への進化」を掲げ、グローバルな生産・販売ネットワークの構築を進めています。近年では、複合機能を備えた海外拠点を展開する一方、積極的な海外M&Aなどを推進していますが、このような状

況の中、海外グループ会社の経営管理強化が重要な課題となっています。各社の経営状況・課題のさらなる「見える化」を進め、連結財務体質の強化及び安定性の確保、将来リスクの把握と対応への備え、グループ内資金管理の強化などに取り組んでまいります。

### 資金効率の向上と資金調達

資金効率については、国内においてはCMS (Cash Management System)により、各社の余剰資金を日々グループ内で運用し、キッツ及び海外グループ会社では、原則、同通貨による余剰資金の活用、債権債務が均衡するような資金運用を実施しています。

また、有利子負債の削減のため、手元資金の圧縮にも注力していますが、突発的な資金需要の発生に備え、取引銀行各行との間で総額40億円の短期借入金の特定期間貸付(コミットメントライン)契約を締結しています。

中・長期資金の調達については、取引銀行各行との関係は良好ですが、一方で、2015年9月に第3回無担保公募社債100億円(償還期限7年)の資本市場からの資金調達も実施しています(格付投資情報センター(R&I)A-取得)。なお、今後の起債に備え、2016年10月に総額200億円の新規社債発行枠の登録を行い、R&Iより同じくA-格付を取得しています。また、長期発行体格付の信頼性をさらに高めるために、日本格付研究所(JCR)からも格付を取得しており、2017年6月に従来のA-からAに引き上げられました。



## 財務体質の健全化

キッツグループでは、企業価値の向上に向けた新たな成長戦略の遂行、大型M&Aによるのれんの発生・毀損、大規模な自然災害や地政学的リスク等に備えるために、財務体質の強化が重要であると考えています。そのため、適正な継続的利益留保による株主資本の充実に努めています。

当期末の非支配株主持分を除く連結株主資本は、前期末比1億70百万円増の710億46百万円、その他の包括利益累計額を加味した自己資本比率は61.9%となりました。

当期は、コーポレートガバナンス・コードに従い、保有株式の保有意義を見直し、投資有価証券29銘柄の一部または全部の売却を実施し、20億97百万円の特別利益を計上する一方、帳簿価額と時価とのかい離を解消するため、本社ビルに信託受益権を設定・譲渡し、リースバックを行うことにより、35億98百万円の特別損失(減損損失)を計上し、財務内容の健全化を図りました。

## 株主還元の充実

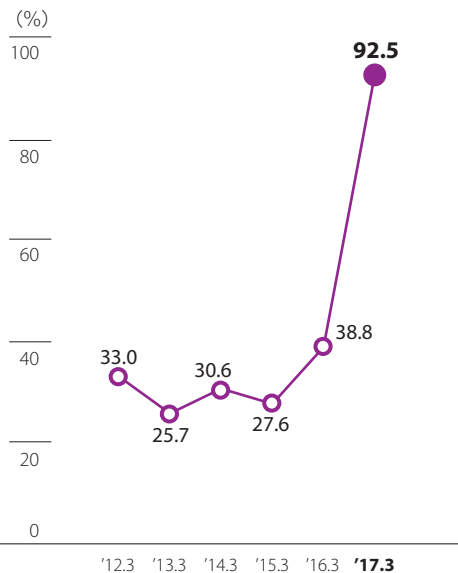
当社は、株主の皆様への利益還元も経営上の重要課題と位置付けています。現金配当につきましては、継続性、安定性に留意しつつ、親会社株主に帰属する当期純利益の25%前後を望ましい水準と考えています。当期は、1株につき13円の配当を実施させていただき、配当性向は



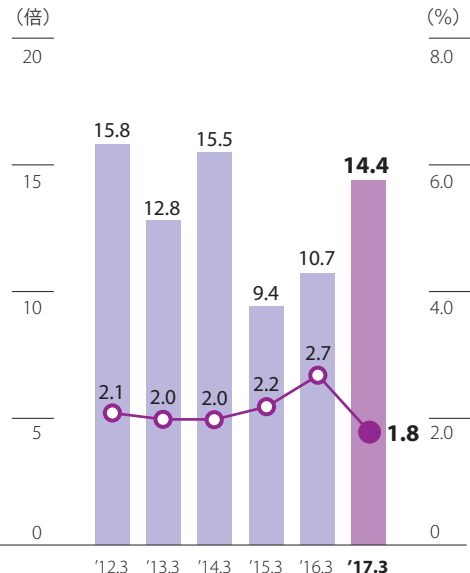
25.3%となりました。また、連結総還元性向については、従来、親会社株主に帰属する当期純利益の3分の1前後を目指してまいりましたが、第3期中期経営計画において、自己株式の取得にさらに積極的に取り組み、株主の皆様への利益還元をより一層充実させる方針を掲げています。この方針に基づき、2016年6月から7月にかけて229万85百株の自己株式を取得しました。さらに、政策保有株式の売却により取得した資金を原資に、2017年2月に500万株(取得価額上限35億円)の自己株式の取得を決定、当期中に318万8百株の取得を完了しています。これにより、当期の連結総還元性向は92.5%となりました。

ROE(自己資本当期純利益率)についても、重要な経営指標の一つであると認識しています。経営資源の集中による経営の効率改善、事業拡大などにより継続的な利益成長を図るとともに、一方で自己株式の取得等にも努め、ROEを現在の7.3%から2020年度には9%、さらに将来的には10%を目指し、資本効率の改善に取り組んでまいります。

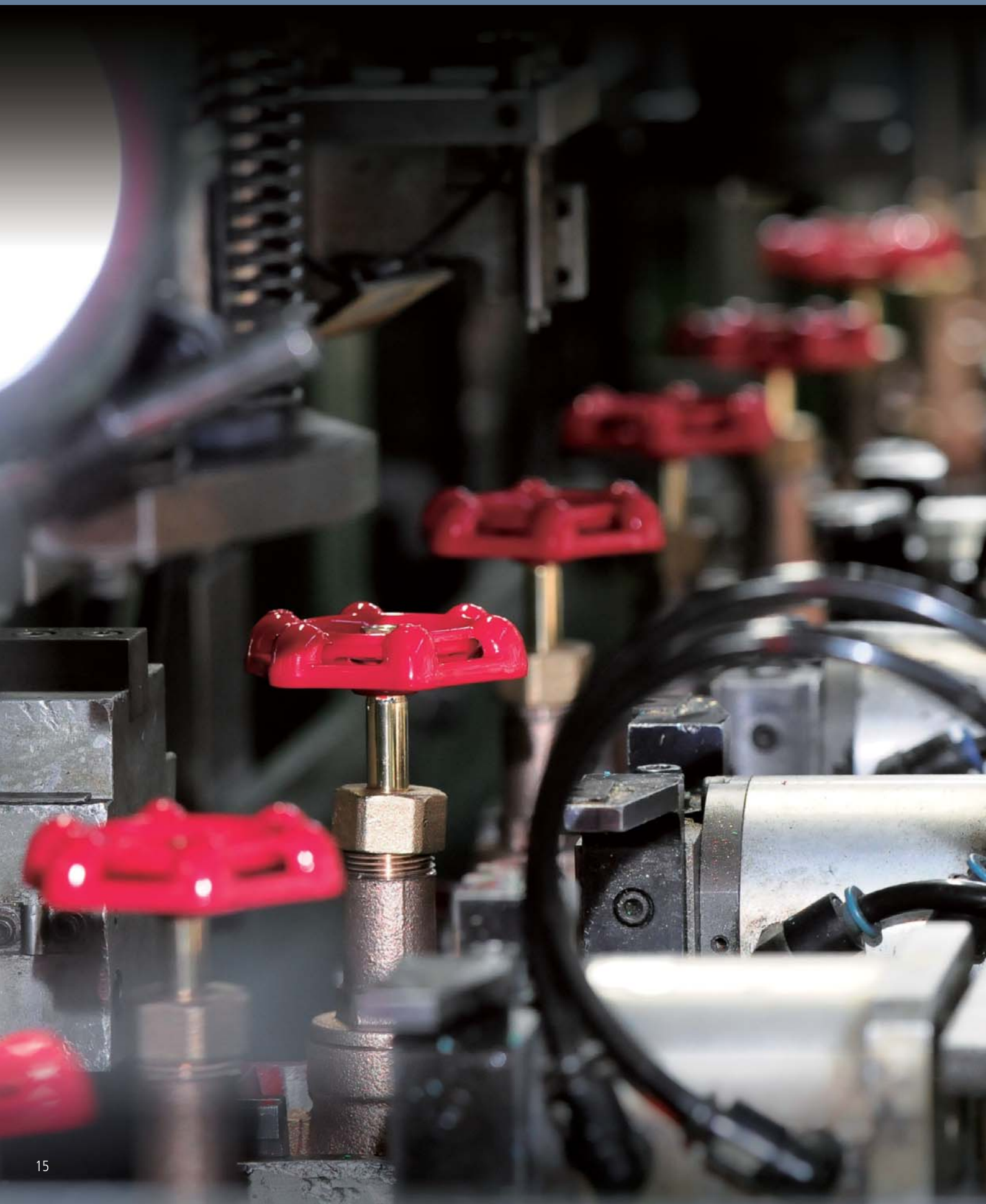
連結総還元性向



PER(株価収益率)



# 事業の概要と戦略



# 新たな可能性への挑戦

キッツグループは、環境に配慮した製品の開発など、新たな可能性に挑戦しています。また、新規市場の開拓に積極的に取り組み、さらなる成長を目指してまいります。

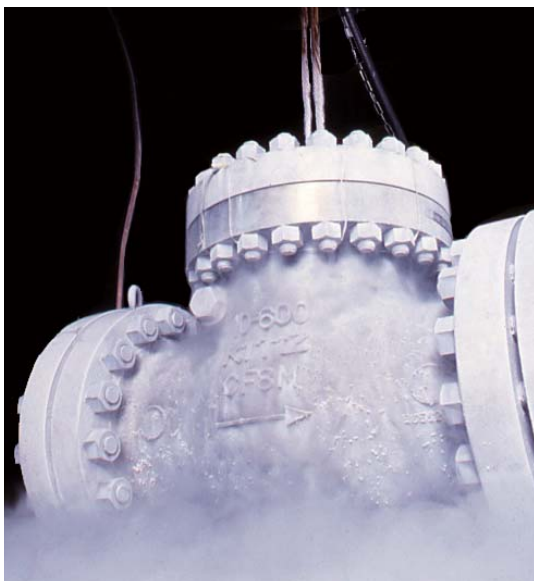
## クリーンエネルギー社会の実現に向けて

キッツは、第3期中期経営計画において、「クリーンエネルギー（水素、LNG）」を重点市場分野の一つとして位置付けています。

LNG向けについては、すでに30年前から取り組み、主に国内市場において多くの実績がありますが、今後、アジア市場を中心に成長が見込まれており、アジアや欧米の規格などに対応した製品の開発が必要となってきます。量産化も視野に、技術開発を強化しています。

水素向けについては、水素ステーション用超高压ボールバルブを日本で初めて開発し、5年前から販売しています。今後は、水素の製造プラントから輸送、受入基地、そして供給に至るまで、水素エネルギーのサプライチェーンの全てにバルブを供給することを見据えて、液化水素向けも含めて製品開発に取り組んでいます。LNG向けはマイナス196℃の低温に耐えることを要求されるのに対し、液化水素用はマイナス253℃と、はるかに厳しい条件となりますが、LNG向けで培ったノウハウを活かし、液化水素用バルブを早期に提供できるよう開発を進めています。

キッツは、高機能、高品質のバルブの供給を通じて、クリーンエネルギー社会に貢献してまいります。



LNG用低温バルブ

## さらなる拡販を目指し

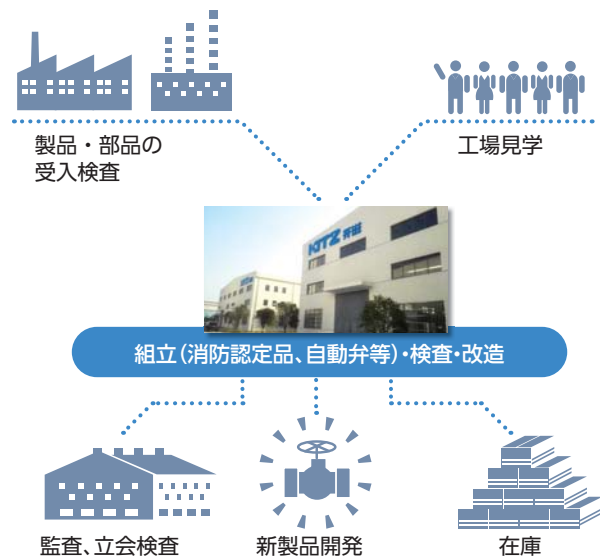
### 中国に複合機能拠点を設立

中国のグループ会社であるKITZ Corporation of Shanghaiは、上海市、北京市、深圳市、重慶市に拠点をもち、販売活動を展開しています。中国国内でのさらなる拡販のため、上海市の北西に位置する江蘇省常熟市に、新製品開発、生産、品質保証、技術サービス、物流サービスなどを行う複合機能拠点として分公司を設立し、2017年1月から稼働を開始しました。分公司とは、中国に設立した現地法人が、中国国内の他の地域に設置する出先機関の名称です。

今後は消防認定などの認証取得、また、各種システム及び制度の確立により、営業力の強化とサービス向上を目指してまいります。



常熟分公司



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キッツグループのESG

データ編



# バルブ事業

## バルブ事業統括本部長メッセージ



水やエネルギーなどの安定供給を支え、  
安心して暮らせる環境を創造します。

名取 敏照

取締役専務執行役員 バルブ事業統括本部長

### バルブとは

バルブは、配管内の流体(水・空気・石油・ガスなど)を流したり、止めたり、流量をコントロールする機能を持つ「流体制御機器」の総称です。

バルブの起源は、紀元前1000年頃の古代エジプト遺跡から発掘された、木製のコックまでさかのぼることができます。1800年代半ばに紡績用ボイラーが輸入された頃、日本で金属製のバルブが初めて使われました。明治になり、水道事業や都市ガス事業がスタートしたことに伴い、日本でバルブの製造が始まりました。

今日では、上下水道、給湯、ガス、空調など、私達の身近な生活フィールドから、石油、化学、医薬品、食品など、あらゆる産業分野の生産プロセスに至るさまざまなパイプに接続され、重要な役割を担っています。私達は日常生活の中でその存在を意識することはあまりありませんが、バルブは人々の暮らしを陰からしっかりと支えています。



### 総合バルブメーカーとして

キッツグループが世界有数の企業グループに成長することができたのは、あらゆるフィールドに多彩な商品を提供する総合バルブメーカーとしての地位を築いてきたことにあります。多くのメーカーが限られたフィールドに特化したり、材質や形状を絞って商品を製造・販売したりする中で、キッツグループは、青銅・黄銅やステンレス鋼、鋳鉄、鋳鋼などのさまざまな材質や形状のラインナップを有し、私達の生活フィールドから産業分野まで、グローバルに商品を提供しています。それらは、素材からの一貫生産体制により製造されており、「KITZ」は、信頼のブランドとしての地位を確立しています。

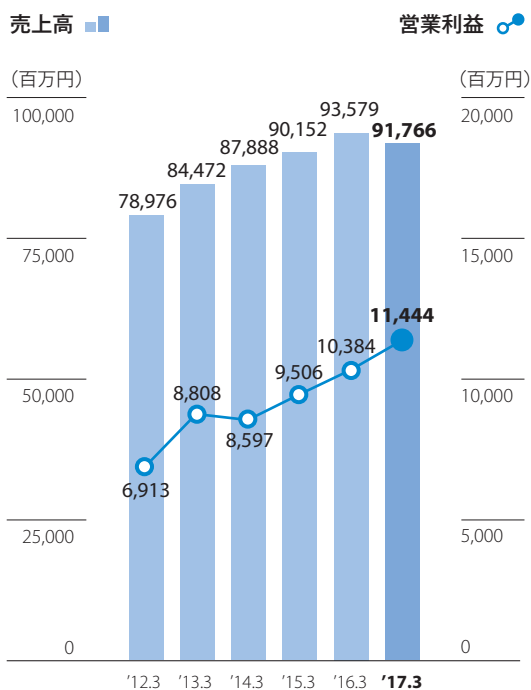
### 2016年度業績及び2017年度計画

国内市場の建築設備向けについては、大きな需要の回復は感じられませんでした。工業向けは、ここ数年、設備投資が控えられているものの、メジャー定修案件への納入もあり、健闘できたと思っています。海外市場については、昨年からの原油価格及び資源価格の低迷、資源関連のプロジェクトの大幅な減少、さらに、急激な円高進行もあって、厳しい状況で推移しました。一方、利益面では、生産コスト削減が進んだことに加え、原材料価格が低位で推移したことがメリットとなりました。これらの結果、バルブ事業セグメントの売上高は、前期比1.9%減の917億66百万円となったものの、営業利益については、前期比10.2%増

の114億44百万円と大幅な増益となりました。

2017年度は、海外市場には明るい兆しは見られないものの、国内市場においては、首都圏再開発案件等への建築設備向けの需要が上向いてきます。また、東京オリンピック・パラリンピックに向けた関連施設の建設の動きがいよいよ本格化してくることが期待されますが、納入時期のピークは来期以降となるでしょう。いずれにしても、2017年度は景気拡大による売上の伸長は難しいと考えています。このような厳しい環境において大切なことは、お客様が必要とする製品をいち早く市場へ投入することです。これまで攻め切れていない分野、弱い分野などに向けて新製品をタイムリーに提案できる体制を整え、売上拡大に寄与する新製品の開発をさらに力強く進めていく方針です。一方で、原材料相場が上昇しており、バルブ事業にとっては利益の押し下げ要因となりますが、本年5月に実施した一部製品の価格改定(値上げ)の効果に加え、グローバル調達、内製化、生産性向上等によるさらなるコスト削減の他、製品の統廃合や部品の共通化への取り組みを加速させ、2017年度のセグメント計画(売上高940億円、営業利益130億円)の達成を目指します。

### バルブ事業セグメントの売上高・営業利益



※バルブ事業の営業利益は全社費用等消去前の数値

### 中長期の成長に向けて

エリア戦略として2016年8月、韓国・ソウルに販売法人 KITZ Corporation of Koreaを設立。6月には、アセアンの地域統括会社であるKITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.がベトナム・ホーチミンに駐在員事務所を開設し、各エリアでマーケティング機能の強化を推進しました。また、中国の販売法人であるKITZ Corporation of Shanghaiが新製品開発、生産、品質保証、技術サービス、物流サービスなどを行う複合機能拠点として分公司を設立するなど、海外拠点のさらなる充実を図っています。



KITZ Corporation of Shanghai 常熟分公司の倉庫棟内

2016年12月、フィルター(浄水器・精密フィルター)事業の競争力強化のため、韓国のフィルターメーカーFilcore Co., Ltd.をグループ会社としました。また、市況が好調な半導体分野向けにバルブ及び継手を製造・販売している株式会社キッツエスシーティーが、システム製品専用工場を新設し、2017年6月より稼働を開始しました。

お客様のニーズに幅広くお応えし、それぞれの事業領域において成長市場に向けた展開を加速させてまいります。



キッツエスシーティー システム製品専用工場

# KITZ Group



# Water

## 命の源である「水」

— 安心してお使いいただくために —

水は、私達人類をはじめ、全ての生き物にとってなくてはならない命の源です。キッツグループは、安心してお使いいただける商品・サービスを提供することにより、水の安定供給を支え、人々のゆたかな暮らしに貢献しています。

### 水処理技術の進化

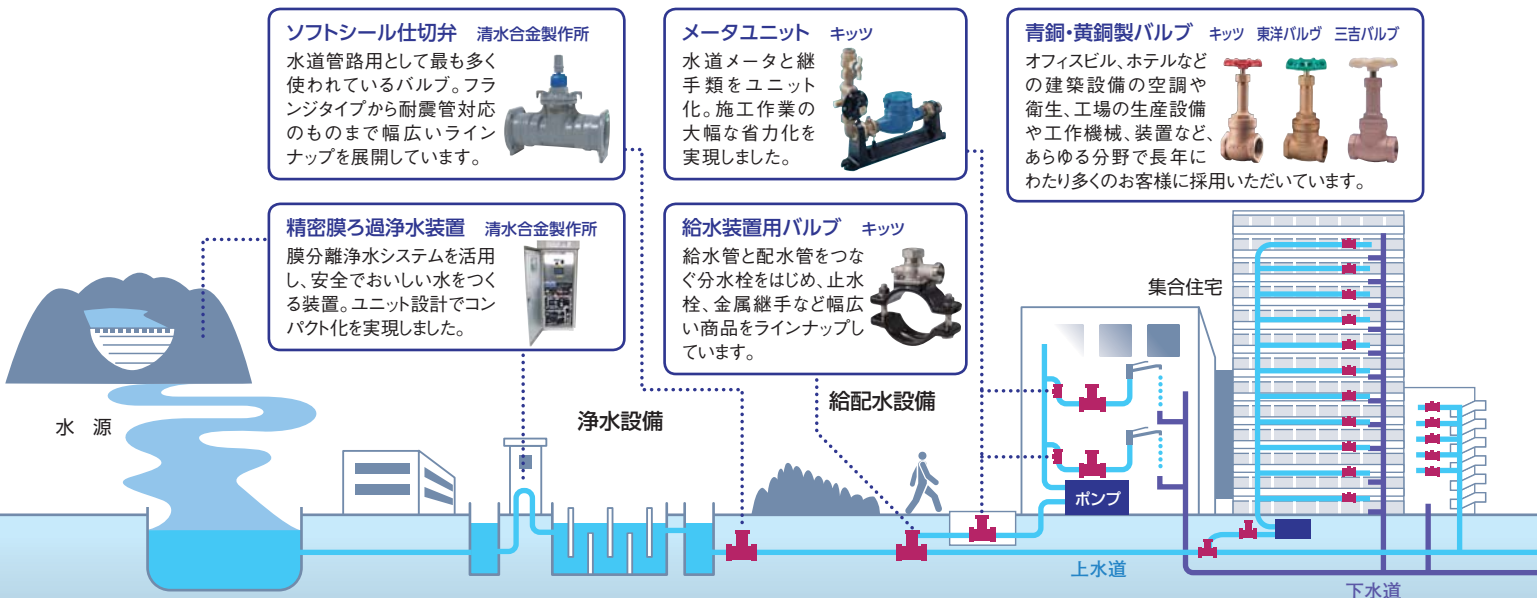
キッツグループの歴史は、水からスタートしました。創業時から製造している青銅製バルブをはじめ、長年にわたって水の流れを制御する「給配水」を担う商品を提供し続けてきました。その後、膜を使って水をきれいにする「浄水」の技術、海水などの飲用に適さない水を浄化・淡水化

する「造水」の技術へと、キッツグループの“水の安心を高める”技術は着実に進化しています。

### 水に関する問題の解決に向けて

現在では、バルブからニッケル、鉛が溶け出すのを防ぐ表面処理技術や鉛レス銅合金材料など、環境に配慮した技術開発を積極的に行い、国際的な水質基準にんでいます。

キッツグループは、グループの力を結集し、長年培ってきた経験やノウハウ、技術、商品、サービスを通して、世界の“水に関する問題”の解決に貢献していきたいと考えています。







ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人財の力

キックグループのESG

データ編

**給水設備用バルブ キッツ**  
鉛の浸出量を抑え、給水・給湯ラインの安全性を確保しています。



**給湯器用バルブ キッツ**  
コンパクトな省スペース型の給湯器に合わせて設計。施工作業を簡略化しました。



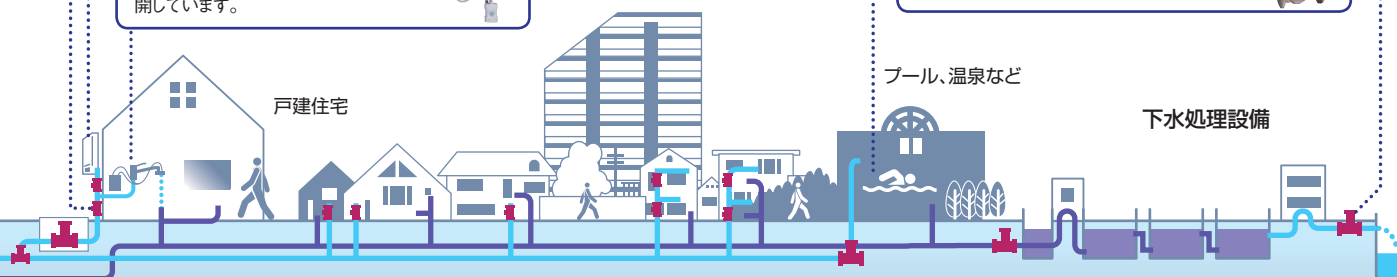
**ピュアキレイザー 東洋バルブ**  
オゾン・紫外線・光触媒を組み合わせ「促進酸化処理」を用いた画期的な水処理装置。「強力除菌&有機質分解」で水質改善を図ります。



**家庭用浄水器 キッツマイクロフィルター**  
中空糸膜製造技術に応用した家庭用浄水器。卓上型からアンダーシンク型まで、さまざまなタイプを展開しています。



**水処理施設用バルブ キッツ**  
ゲートバルブやボールチャッキバルブなど、下水処理の過程で必要とされるバルブを幅広くラインナップしています。



戸建住宅

プール、温泉など

下水処理設備

# KITZ Group + Energy

## 産業を動かす大切なエネルギー資源である「石油、ガス」

—— 絶え間なく送り続けるために ——

石油、ガスなどのエネルギーは、欠かすことのできない大切な資源です。キッツグループは、石油精製・石油化学プラントやガスパイプライン、LNG(液化天然ガス)基地などのプロセスラインに、エネルギーの安定供給を担う商品を提供しています。

### 過酷な環境で流体を制御

石油・ガスプラントでは、高温・高圧の流体が配管を流れるため、過酷な環境に耐えられるバルブが求められます。キッツグループでは、流体の種類や温度、圧力など厳しい使用環境を想定したさまざまな試験や分析・評価を繰り返し行い、この厳しい条件をクリアした商品だけがラインナップに加えられます。

世界最大級のプラントが立ち並ぶU.A.E.、サウジアラ

ビア、クウェートなど中東の国々の他、北米やメキシコ沿岸の石油精製プラントにおいても、キッツグループの鋳鋼製バルブやステンレス鋼製バルブが活躍しています。

また、LNG基地やその関連設備では低温用バルブが、搬送設備では全溶接形鍛鋼製ボールバルブなどが採用され、天然ガスの安定供給に貢献しています。

### グリーンなエネルギー社会に向けた製品開発

さらにキッツグループは、国内のバルブメーカーとして初めて、次世代エネルギーの本命と言われる水素を動力源とする燃料電池自動車に、高圧の水素を供給する水素ステーション用ボールバルブを開発するなど、環境に配慮した製品の開発にも力を入れています。

#### メタルシートボールバルブ

Perrin GmbH

高温流体や摩耗性流体にも対応可能な耐久性の高いバルブ。過酷な環境での確実な開閉が可能です。



#### 鋳鋼製バルブ キット

一般的な鋳鋼材料に加え、高温・高圧の条件下での使用に適した製品を開発、世界各地の石油関連プラントに供給しています。



#### 空気圧式・電動式自動操作バルブ キット

アクチュエータを搭載した自動操作バルブ。空気圧を駆動源とする方式と、電気を駆動源とする方式があります。



#### 3ピース・トラニオンボールバルブ

KITZ Corporation of Europe, S.A.

オイル及びガスをはじめ、石油精製から石油化学、化学までのエネルギー分野で幅広く使用される工業用ボールバルブ。



#### ステンレス鋼製バルブ キット

耐食性に優れ、化学プラントや石油化学工業で幅広く使用されています。近年では、その耐食性・耐久性からコストパフォーマンスの高さが認められ、一般産業の装置用や建築設備など、さらに幅広い分野で採用されています。



#### 小型自動操作バルブ キット

産業用生産プロセスラインでの小口径配管ラインの自動化ニーズにお応えし、軽量・小型・高性能な電動式・空圧式アクチュエータを開発し、小口径バルブに搭載しました。



#### 石油精製・石油化学プラント







ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キットグループのESG

データ編

**全溶接形鍛鋼製ボールバルブ キット**

漏れを確実に防ぐ安全設計のパイプライン用ボールバルブ。長手溶接部を無くした全溶接ボディと、全てのシール部に2重シール方式を採用しています。



LNG(液化天然ガス)基地・搬送設備

**低温用バルブ キット**

LNG(液化天然ガス)製造・受入れ・サテライト基地向けをはじめ、エチレンプラント、工業用低温ガスなど、あらゆる低温弁ニーズにお応えします。



**LNG用低温調節弁 ワイケイブイ**

米・VALTEK INCORPORATED(現 FLOWSERVE CORPORATION)の技術に基づいたLNG用低温調節弁で、耐久性に優れ、メンテナンスが容易です。駆動部にコンパクトなシリンダーを採用し、高出力で優れた締切性能を有しています。



**水素ステーション用超高压ボールバルブ**

水素を動力源とする燃料電池車に燃料を供給するための水素ステーション用超高压ボールバルブ。



火力発電所

**産業用フィルター**

超微細孔径の中空糸膜は、薬液、圧縮空気、水の精密ろ過に適しています。



**高純度ガス用バルブ**

クリーン、高耐久性のステンレス製ダイヤフラムバルブ及びペロウズバルブ。



水素ステーション

半導体製造設備





# 信頼のブランド

キッツグループは、多数の商品ラインナップを揃え、その品質は国内外のお客様から高い信頼を得ています。中心となるKITZブランドをはじめ、あらゆる市場、分野で使われる11のブランドを展開しています。

## KITZ

株式会社 **キッツ**

<http://www.kitz.co.jp/>

総合バルブメーカーとして、幅広い市場・分野に商品を提供。特に、建築設備市場、石油精製・石油化学市場に強い。



**東洋バルブ株式会社**

<http://www.toyovalve.co.jp/>

日本で初めてバルブを生産したパイオニア。建築設備向けや消防防災設備用バルブを販売。環境事業にも力を入れている。



株式会社 **清水合金製作所**

<http://www.shimizugokin.co.jp/>

水道機器総合メーカー。水道バルブから浄水装置までの商品を製造・販売。

## KITZ SCT

株式会社 **キッツ エスシーター**

<http://kitz-sct.jp/>

半導体製造設備等の高純度流体用バルブ、継手及びユニットを製造・販売。



**三吉バルブ株式会社**

<http://www.miyoshivalve.com/>

衛生設備を中心とした建築設備用バルブとターボ冷凍機など冷凍空調機器用バルブに特化。

## KITZ MICRO FILTER CORPORATION

株式会社 **キッツ マイクロフィルター**

<http://www.kitzmf.com/>

工業用精密フィルター及び浄水器を製造・販売。

## YKV

ワイケイブイ株式会社

<http://www.kitz.co.jp/ykv/>

総合計装メーカーである横河電機(株)、調節弁の技術力を有する米・VALTEK INCORPORATED(現FLOWSERVE CORPORATION)、(株)キッツの3社合併により設立。さまざまなアプリケーションに対する調節弁を製造・販売。



**Perrin GmbH**

<http://www.perrin.de/>

ドイツの工業用ボールバルブメーカー。高温・高圧の特殊用途メタルシート技術が強み。

## "Jso" KITZ CORPORATION OF EUROPE, S.A.

<http://www.kitzeurope.com/>

スペインの鋳鋼製及びステンレス鋼製ボールバルブメーカー。



**Micro Pneumatics Pvt. Ltd.**

<http://www.micropneumatics.in/>

インドの工業(薬品、食品、石油)用自動ボールバルブ及びバタフライバルブメーカー。



**Metalúrgica Golden Art's Ltda.**

<http://www.mga.com.br/>

ブラジルの工業用ボールバルブメーカー。

菊ハンドルは信頼されるバルブのブランド **KITZ** のシンボルです。

日本を代表する工業デザイナー 柳 宗理(やなぎ そうり)氏(1915~2011年)の協力により誕生したハンドルは、人間工学の観点からも握りやすさを追求。指がかりの形に、大輪の菊の花弁がもつ「ふくよかさ」をシンボライズさせているため、愛称を「菊ハンドル」としました。1980年9月から青銅製バルブのハンドルデザインに採用し、順次、他の商品にも展開してきました。



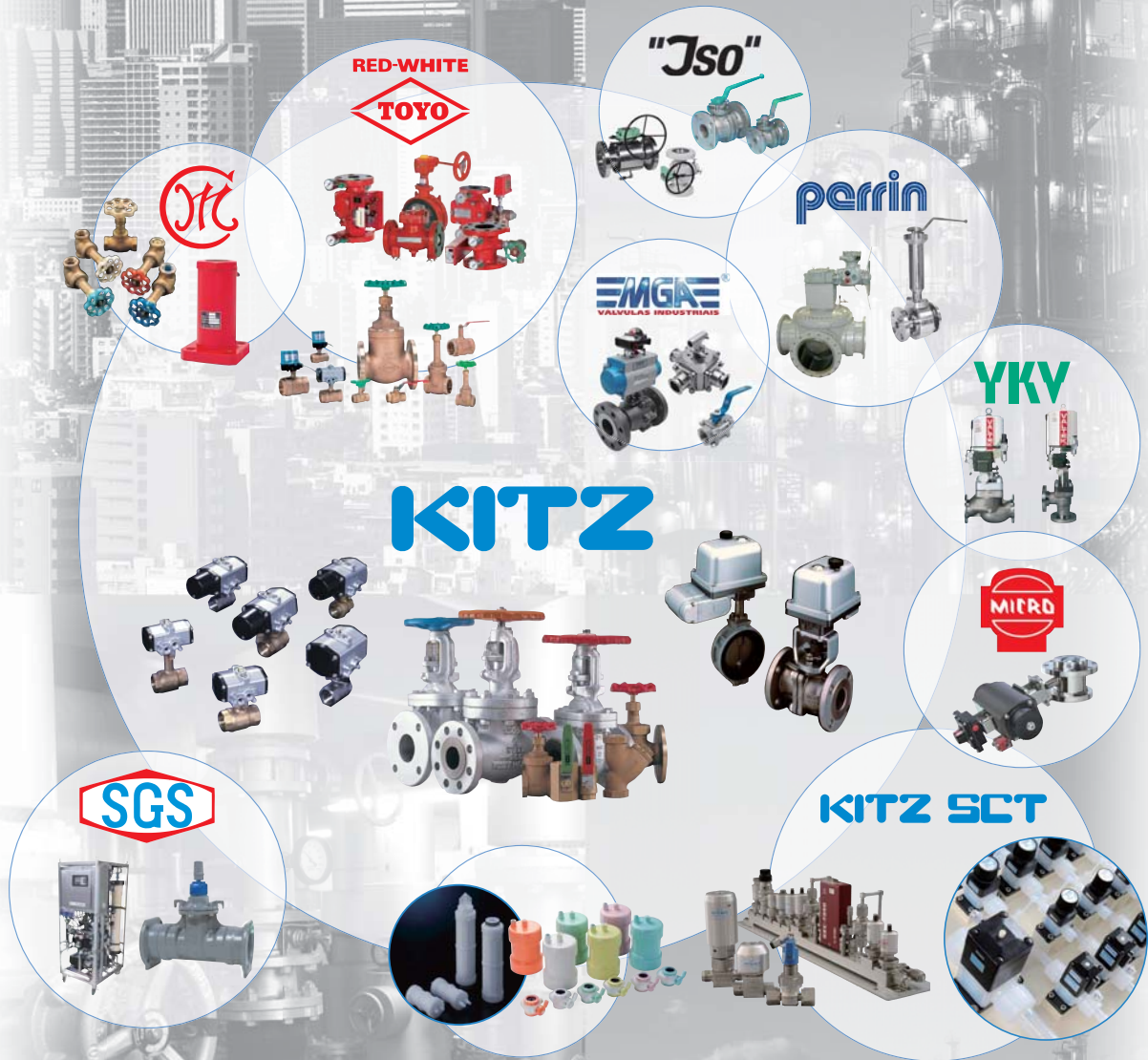
ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キットグループのESG

データ編



KITZ MICRO FILTER CORPORATION

# 高付加価値を生み出す研究開発体制

時代が求める多様なニーズにお応えするため、「安全性」「耐久性」「信頼性」を誇る流体制御機器を生み出しています。

## 研究開発のコンセプト

キットの開発設計部門は、「お客様に感銘的な創造商品を継続的に提供し、技術体質の強化とともに企業価値を持続的に向上させます」を行動指針として、積極果敢に研究開発に取り組んでいます。

### ■ コアテクノロジー

事業の核となる素材及び工法技術における一貫した要素技術の拡大化。

### ■ インテグレーター

お客様へのソリューション提供による技術提案型企業としての体質強化。

### ■ スピード

先行かつ迅速な研究・商品開発。

## 汎用から特殊、高付加価値システムへ進化を続ける商品開発

汎用バルブ単体の製造からスタートしたキットは、時代のニーズを先取りし、流体のオン/オフ制御から自動制御、そして単体から複合ユニットへと、高付加価値商品の開発に取り組んできました。また、人や地球環境への負荷が少ない技術開発(工法・素材開発、資材調達)を積極的に進めており、特に素材開発については、鉛レス銅合金や欧州のRoHS指令に適合した素材等、高まる環境・安全への社会的要請に応えるための商品開発にも力を入れています。

時代が求める多様なニーズにお応えするため、技術者一人ひとりがスキルを高め、日々価値創造に挑戦し続けることによって、キットグループは、卓越した「安全性」「耐久性」「信頼性」を誇る流体制御機器を生み出しています。

## ● 世界トップレベルのテクノロジーで進化を続ける商品開発



ラインナップの拡充  
〈PFAライニングバタフライバルブ  
(株)キット〉

接液部に採用した高グレードのPFA樹脂と独自の封止構造により、優れた耐塩素透過性と封止性能を持つケミカル用バルブ。



新素材の開発  
〈北米向け鉛フリーバルブ(株)キット〉

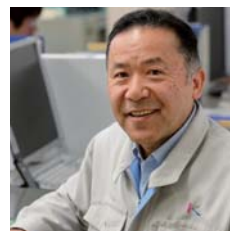
キットメタルワークスと共同で開発した、高いリサイクル性と良好な切削性を有する、新たな耐食用鉛フリー黄銅材料で作られたバルブ。



高機能・超精密の技術  
〈薬液用中空糸膜フィルター  
(株)キットマイクロフィルター〉

日々進化する半導体技術に対応するために、中空糸膜製造技術を駆使し、ナノろ過、クリーン化を実現したフィルター。





## 世界のユーザーの信頼に応える トップレベルのテクノロジー

業界をリードし続けるキッツは、常にマーケットインの思考をベースに、高品質で独創的な商品をお客様にお届けしています。グループ一丸となって、高機能化・超精密化する商品技術・生産技術を育み、さまざまな分野で技術の種を开花させています。

## 高付加価値商品を生み出し続ける 独自の研究開発体制

キッツの研究開発の原動力は、高度な試験・分析・解析及び計測技術にあります。全ての商品は徹底した試験と分析によって管理され、これをクリアした商品だけがお客様のもとに届けられます。

### ● あらゆる使用条件を想定した試験・分析



#### 流量試験

実際の配管を再現してバルブを設置し、流体を流すことにより得られる圧力の差を測定します。測定した値は、お客様のプラント設計に反映されプラント建設の迅速化に貢献しています。



#### 曲げ強度試験

近年、配管接続には、耐震性や軽量化などが求められています。システムのプロセスで加わる応力集中に対し、バルブ接合部分の評価を行い、品質を確認しています。



#### ブローオフ試験

高温・高圧の流体制御では、バルブの開閉時に大きな力が加わります。使用限界条件においてもバルブが正確に作動し、高い品質を確保できるよう耐久性を確認しています。



#### 低温試験

環境に優しいクリーンエネルギーであるLNG（液化天然ガス）の液化プラントは全世界に建設されています。低温の流体であることから、低温状態を再現した試験を行い、正確な流体制御能力が発揮できるよう、常に品質向上に努めています。



#### ファイアテスト

バルブのシール部材が完全に焼損するほどの火災にあっても、バルブとしての機能を維持することが可能であるかを確認し、製品の基本的設計構造に反映させています。



#### シミュレーション解析技術

日々進歩する各種シミュレーション解析技術を積極的に取り入れ、製品機能の事前検証や欠陥の少ない鋳造方法の確立など、商品の信頼性向上と開発期間短縮に大きく貢献しています。

# 高品質を実現する生産体制

キットグループのモノづくりは、お客様が必要とする商品を「必要な時に」「必要な量だけ」「より良い品質で」お届けすることを基本としています。

## 素材からの品質管理を実現した一貫生産体制

キットグループは一貫生産を基本に考え、バルブの素材である鋳物(素形材)をコア技術と位置付け、鋳物から社内生産しています。バルブの主要材料である青銅、鋳鉄、ダクタイル、ステンレス鋼、鋳鋼、それぞれの鋳造設備をグループ内で持つ一貫生産体制によって、素材からの品質保証体制の確立と多品種少量生産を実現しています。

## 「KICS」に基づく生産方式

マーケットインの発想によるモノづくりを支えているのが、「KICS(KITZ Innovative and Challenging System)」に基づく生産方式です。KICSは、売れるタイミングに合わせて工程順に1個ずつ製品をつくることで、後工程には良品しか流さない仕組みを確立しているのと同時に、受注から生産、納品までの一連の工程における停滞や無駄の排除を実現しています。また、さらなる納期短縮を目指し、標準作業の徹底と工程改善による製造ラインの強化に継続して取り組んでいます。

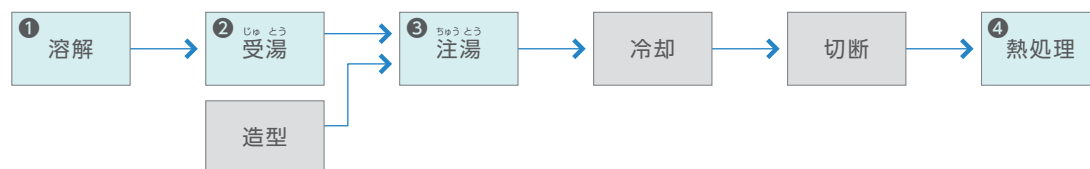
## コスト削減への取り組み

キットは、第3期中期経営計画に、「グローバル調達・内製化・生産性向上等によるさらなるコスト削減」、「利益を生む設備投資の積極的な実施」の2点を掲げています。これに基づき、当期は加工設備の新規導入により生産能力を増強した他、塗装ロボット2台を導入し、省人化による生産性向上を実現しました。今後も利益を生む設備投資を積極的に実施していきます。また、新たな取り組みとして、製品の統廃合や部品の共通化を進めています。



伊那工場に導入した塗装ロボット

### ● ステンレス鋼製バルブの生産工程



**①溶解**  
原材料を高周波電気炉で溶かします。



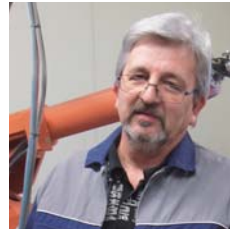
**②受湯**  
溶湯を取鋼に入れます。



**③注湯**  
鋳型に溶湯を流し込みます。上と下の型と中子のすき間に溶湯が流れ込みます。



**④熱処理(固溶化熱処理)**  
素材を1,100℃まで加熱した後、急冷(水冷)します。これにより、均一な金属組織を得ることができ、引っ張り、伸びなどの機械的性質(強度)を高めます。



## 品質マネジメントシステムに裏付けられた キットブランド

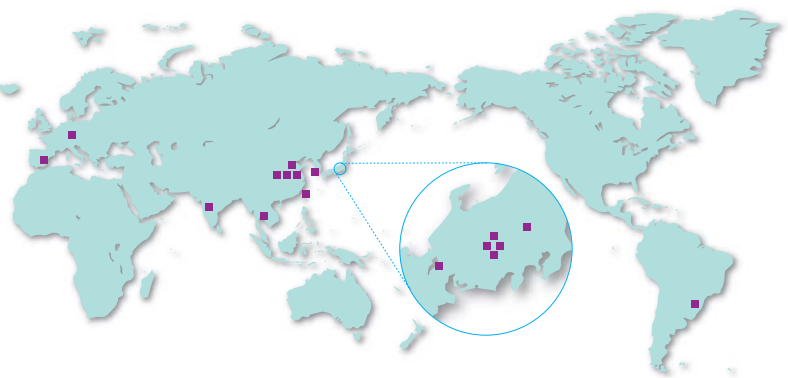
キットは、品質マネジメントシステムの重要性にいち早く着目、1989年11月、日本企業で最初にISO9001の認証を取得しました。現在では、キットグループにおける国内外全ての生産拠点においてISO9001の認証を取得し、国内においては、本社、長坂工場、伊那工場及び茅野工場  
で認証を継続しています。また、日本のバルブメーカーとして最初にPressure Equipment Directive97/23/EC (PED)の認証を2001年7月に取得、台湾、タイ、中国の生産拠点でも認証を取得しています。

こうした国際的な品質規格に加え、国内では、高圧ガス保安法に基づく大臣認定試験者、JIS(日本工業規格)製品認証やJWWA(日本水道協会)が定める規格、API(アメリカ石油協会)のAPI Monogram表示許可などを取得しています。

## 世界最適地生産を目指した グローバルな生産ネットワーク

キットグループは、現在、グローバルな生産ネットワークの構築を進めています。

国内工場は高付加価値商品の生産を行うとともに、グローバル生産拠点のマザー工場としての重要な役割を担っています。また海外では、タイ、台湾、中国、韓国、インド、スペイン、ドイツ、ブラジルに生産拠点を設け、現地のマーケットニーズに的確かつ迅速に対応するための生産体制を構築しています。



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キットグループのESG

データ編



**⑤酸洗**  
熱処理やショットプラストによる鑄肌表面の酸化スケールなどの汚れを取り除きます。併せて、鑄肌表面に保護皮膜を生成させ、耐食性を高めます。



**⑥機械加工**  
切削や穴開けなどの加工を行います。



**⑦組立**  
バルブの各部品を組み立てます。



**⑧圧力検査**  
流体を流して圧力を加え、要求品質を満たしているか検査します。



**⑨出荷**  
生産された製品は出荷ホームに集められ、徹底した管理のもと迅速に出荷されます。



# 広範で強固な販売ネットワーク

キッツグループは、国内においては創業当初より、全国をカバーする強力な販売網を確立してまいりました。現在では、お客様が求める品質、価格、納期、サービスの全てにお応えするために、グローバルな販売ネットワークの構築を進めています。

## 充実した流通体制

全国をカバーする強力な代理店網により、お客様の声に即応できる販売体制を構築しています。これらの代理店とキッツは専用回線やインターネットでつながれ、マーケットの需要が生産の現場へ直接フィードバックされるとともに、業務効率の大幅な改善と業務のスピードアップを実現しています。また、各代理店が持つ在庫の基準量を商品ごとに定め、出荷された数量を日単位で補充することにより、在庫量を一定に保つ後補充方式を採用。基準在庫を設定した商品の在庫量の把握が不要となる他、即納ニーズへの対応も可能となります。



## きめ細かいアフターサービス

アフターサービスは、グループ会社である株式会社キッツエンジニアリングサービス(略称:KESCO)が担当しています。近年、国内の既設プラントにおいては、改修・ロングライフ化が推進されており、メンテナンスに対する意識が高まっています。このような状況の中、KESCOはキッツのメンテナンス部門を担い、キッツの販売ネットワークや各種データ類をバックボーンに、多様なニーズにお応えしています。また、国内外の他メーカーのバルブやアクチュエータのメンテナンスを手掛け、サービス拠点と協力会社との連携により、全国各地にスムーズできめ細かいメンテナンスサービスを提供しています。

KESCOでは、各種バルブのメンテナンスの他、流体制御についての技術相談及び仕様検討、バルブの自動化や改造、各種プラントへの定修管理者、その他技術者の派遣も行っています。



## 日本+3極2拠点を重点エリアとして 供給体制を整備・強化

キッツグループは、日本と3極（欧州、米州、アセアン）、2拠点（中国、インド）を世界市場の重点エリアと位置付け、それぞれの市場環境に応じた販売・サービス体制を強化しています。

海外では、エリアごとに、販売、マーケティング、エンジニアリング、ストック、メンテナンス、サービスの機能を持つ地域統括会社を置いて地域に密着した事業を展開し、

現地のお客様にご満足いただける商品・サービスを提供しています。

インド、U.A.E.に駐在員事務所を置く他、中国、韓国、シンガポール、タイ、アメリカ、ドイツ、スペイン、ブラジルに販売拠点を設置し、グローバルな販売ネットワークを構築しています。また、個別のご要望に迅速に対応するために、バルブの改造や修理を行う「キッツオフィシャルモディフィケーションショップ」網の展開を図っています。

### ● 3極の地域統括会社

#### 欧州

ドイツ・ニッデルラウにKITZ Europe GmbHを置いて、欧州地域のみならず中近東及びCIS市場も見据えた生産・販売戦略を推進し、事業拡大を目指しています。

KITZ Europe GmbH  
Chairman  
山本 哲典



#### 米州

アメリカ・テキサス州にKITZ Corporation of Americaを置いて、北米はもちろん、中南米の国々に向けた販売活動を行っています。

KITZ Corporation of America  
President  
James Walther



#### アセアン

シンガポールにKITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.を置いて、アセアン地域の中核拠点として営業活動を推進しています。

KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.  
CEO & Managing Director  
河野 誠



## アジアに2つの拠点を開設

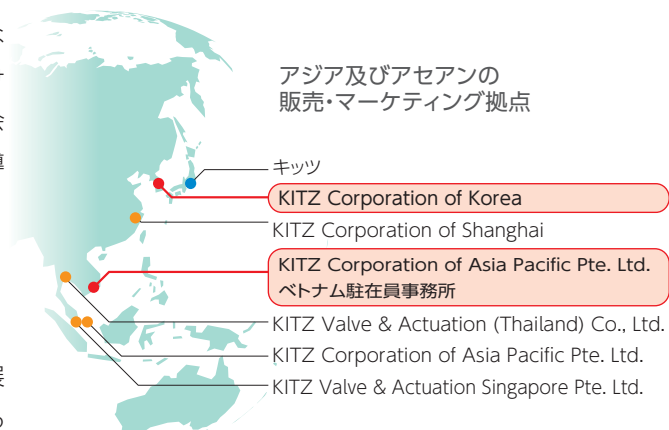
### ● KITZ Corporation of Korea

KITZ Corporation of Koreaは、2013年9月に韓国・ソウル市に設立した駐在員事務所を、2016年8月に本格的な営業拠点に移行したものです。これにより、韓国市場における代理店網の拡充及び韓国のプラントエンジニアリング会社への営業強化を進めるとともに、グループ会社による半導体関連市場への拡販を支援してまいります。

### ● KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.

#### ベトナム駐在員事務所

アセアンにおいては、販売会社をシンガポールとタイに展開していますが、2016年6月、今後、大きな伸びが期待できるベトナムに、同地域の統括会社KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.の駐在員事務所を開設しました。



# バルブ業界のリーディングカンパニーとして

キッツは、バルブ業界のリーディングカンパニーとして長年培ってきた高度な技術と豊富な実績を活かし、お客様のさまざまなニーズにお応えするため、バルブに関する各種サービスを提供しています。

## お客様を対象としたバルブ技術研修

キッツ研修センターは、バルブ技術に関する日本で唯一の常設研修所として1981年の設立以来、大勢の方々にご利用いただいています。近年、バルブを用いる産業は、環境・安全基準の厳格化に対応した新技術や、高機能化・省人化に対応した自動化技術の発展が著しく、これまでにないスピードで変化しています。こうした先進技術に対応できる研修プログラムとして、「バルブの基礎講座」及び「自動弁の基礎講座」を開設しています。

バルブを取り扱う商社をはじめ、工事店、ユーザー、装置メーカー、プラント関連会社、学生など、受講される方は多岐にわたります。バルブの分解・組立、配管等の実習や、豊富な実務経験を持つ技術者による講義を通じて、受講者のスキルアップをお手伝いしています。



キッツ研修センター



実習室

## バルブマイスター制度

キッツでは、自動弁及びバルブの金属材料に関して、一定の技術知識レベルに達した営業担当者をバルブマイスターとして認定する「バルブマイスター制度」を2014年度より導入しています。バルブマイスターとなるため、営業担当者は約1年間、実践に基づいた専門的な教育と研修を受講。認定試験に合格した者にはバルブマイスターの称号が授与されます。

バルブマイスターは、お客様からのご相談に対して、具体的な解決策をご提案し、お客様とともに課題を解決していけるコンシェルジュを目指しています。



バルブマイスターとして認定された営業担当者の名刺には、認定マークが表示されます

## お客様満足度調査

キッツでは、より良い商品・サービスを提供するため、1997年より年1回、1,000社以上のお客様を対象とした満足度調査を実施しています。お客様からのご回答を収集・分析した結果をもとに、お客様によりご満足いただけるよう一層の改善に取り組んでいます。



2013年よりWebアンケートシステムによる調査を実施



# 伸銅品事業

## 黄銅棒の製造・販売を担う

黄銅棒は、各種機械、建築資材などに幅広く使用されています。

### 黄銅棒を広く販売

伸銅品事業を担う株式会社キッツメタルワークスは、キッツグループの主力であるバルブ事業への黄銅棒の供給基地としての役割を担うとともに、水栓金具やガス機器、家電製品などの部材の素材として幅広く使用される高品質な黄銅棒の製造・販売を行っています。受注から納品までの情報の流れを効率化し、高品質・短納期を実現しています。

### 環境に優しい新素材開発

長年培った合金技術を活かし、耐脱亜鉛腐食黄銅棒や鉛レス黄銅棒、カドミレス黄銅棒など、各種規制に対応した、人にも環境にも優しい新素材の開発・販売を積極的に行っています。近年では、改正米国飲料水安全法に対応し、リサイクル性を向上させた優れた耐食性を有する鉛フリー黄銅棒「キーパロイII (XAメタル・XCメタル)」を開発、販売を開始しています。

### さらなる効率化に向けて

2015年7月に黄銅棒の切削加工メーカーである北東技研工業株式会社がグループに加わりました。また、製造工程の効率化と収益拡大のため、キッツグループの黄銅切削・鍛造工程のキッツメタルワークスへの集約を進めるべく、2016年5月に新工場の操業を開始しました。

また、既存工場についても製造ラインの統廃合を複数年にわたり実施し、伸銅品事業のさらなる効率化を図ってまいります。



製造ライン



株式会社キッツメタルワークス

### 「ホテル紅や」もキッツグループです。

キッツの創業者 北澤利男の出身地である長野県諏訪市。諏訪地方には現在もキッツグループの多くの事業所が所在しています。

ホテル紅やは、諏訪湖を望む信州の雄大な自然の中で、豊かな温泉を堪能できるリゾートホテル。観光客だけでなく、地域の方々の憩いの場としても利用されています。



ステーキホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キッツグループのESG

データ編

# 人財の力

## 人事担当役員メッセージ



グローバルで戦える人財の育成と  
高いモチベーションを保つ企業風土を醸成します。

村澤 俊之

取締役執行役員 管理本部長

### 目指す人財像

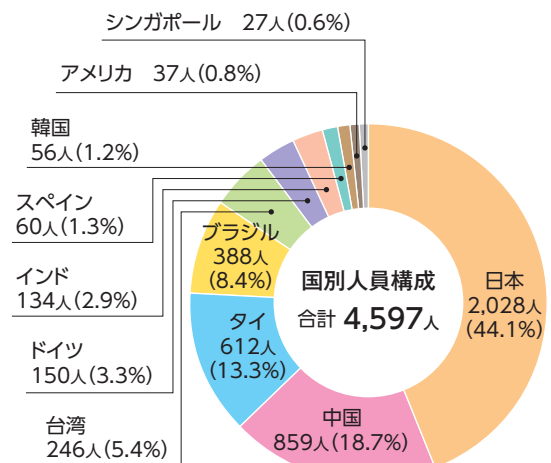
キッツの行動指針の一つ目に「Do it True(誠実・真実)」があります。誠実であること、真面目であること、そして、社会のルールや倫理に反しないこと。これは、キッツグループが最も大切にしている価値観であり、キッツの良き社風であると考えています。これに続く行動指針が「Do it Now(スピード・タイムリー)」「Do it New(創造力・チャレンジ)」。これまで以上のスピードで事業を展開し、目まぐるしく変化する市場の要求に応えていくためには、従来の殻を破る発想や行動力が求められます。秘められた創造力を自ら発揮し、新しいことに果敢にチャレンジするプロフェッショナル集団を目指しています。



### グローバルで戦うために

1984年にアメリカに販売会社を設立して以降、生産拠点、販売拠点を海外に順次設立するとともに、スペイン、ドイツ、インド、ブラジルのパルプメーカーをM&Aによってグループに加えるなど、グローバルに事業を展開しています。現在、キッツグループの拠点は12カ国、日本以外の国で勤務する社員(出向者を含む)は、全体の55.9%を占めるまでになりました(2017年3月末現在)。

これまで以上のスピードで事業をグローバルに展開するためには、さまざまな文化や多様性を理解すること、そして、多様な人たちとお互いに協力しながら一つの目標に向かっていくことが重要となってきます。広い視野で思考・行動することのできる、グローバルで戦える人財の育成を進めています。



2017年3月末現在

## ダイバーシティへの取り組み

グローバル化が進む中、さまざまな顧客のニーズをくみ取るためには、それを感知できるだけのいろいろな「個性」を持つ人財が必要となってきます。また、これからの企業は、多様な人財を受け入れ、その一人ひとりの良さを活かせる働き方（環境）を整え、社員全員が生き生きと働くことができる仕組みづくりが必要となってきます。このような考え方を進めていくことで、社員がやりがいと誇りを持って仕事に励むことができるようになって考えています。

キッツは、性別、年齢、国籍にとらわれず社員一人ひとりが最大限に力を発揮することができる環境づくりに向けて、以下の取り組みを進めています。

- **適所適財** 組織の戦略や方向性を具体的に定め、その部門や業務に適しているかを吟味し、適切な人財を配置して大切に育成する。
- **人事制度の改革** 挑戦する機会を平等に与え、社員が仕事にやりがいを感じることができる人事制度に改革する。
- **企業風土や意識の変革** 創業からの伝統を守りながら、多様な人財が認められるような企業風土を醸成。「今までのやり方が当たり前」から、「常に新しい方法を」という考え方に意識の変革を促す。
- **女性活躍の推進** 女性が存分に力を発揮できる制度・仕組みを整える。

## 人財育成についての考え方

キッツは、「個人能力の発揮」と「組織能力の発揮」を両輪に、人財の育成に取り組んでいます。階層別教育を柱に、職掌・職種別専門教育、特別選抜教育などの人財育成プログラムを充実させています。また、「チャレンジ目標制度」を運用し、「育成」を「評価」と「処遇」に連動させることにより、高いモチベーションを保つことができる企業風土を醸成しています。

「企業は人なり」という言葉があります。企業の変革を担うのも、企業の社会的な価値を確かなものにするのも、全て社員一人ひとりの行動や考え方、そして生き方にかかっていると考えています。

## 若手社員の基礎力向上

新卒採用者は、4月の入社式終了後から、本社及び研修センターにおける、社会人としてのマナーや仕事の基本に関する2週間の導入研修を経て、その後、6月末まで、工場での実習を含む新入社員研修で、バルブに関する基礎知識、キッツ社員としての行動や考え方の基本を学びます。技術職として採用された社員については、さらに1年かけて、設計、機械加工、鋳造などの基礎を学び、モノづくりの基本を十分に身に付けてから正式配属となります。

また、選抜した若手社員に対する語学教育にも力を入れています。海外での技術指導や打ち合わせ、学会での発表などの場で、スムーズなコミュニケーションが図れるよう、語学力向上に向けた取り組みを行っています。



## ワーク・ライフ・バランス

社員一人ひとりが高いモチベーションと充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たして企業人としてのキャリアを積むとともに、子育てや介護など、個人のライフステージの変化に応じて、多様で柔軟な働き方を選択することにより、その力を十分に発揮できるよう、キッツでは、ワーク・ライフ・バランスの充実に取り組んでいます。

仕事と家庭生活の調和のとれた働き方を実現し、暮らしに豊かさを実感できるようにするために、育児・介護のための短時間勤務の拡充や有給休暇の時間単位での取得、積立有給休暇を育児・介護休業に充当する仕組みにするなど、働きやすい環境づくりを進めています。

キッツ単体の自己都合退職率は1パーセント台であり、社員の定着率は高い水準となっています。キッツでの働きやすさを表す一つの指標であると考えています。



# 多様な人財がキッツグループを支える

それぞれの現場で価値創造に取り組む姿を紹介します。

キッツにはグローバルで活躍できるチャンスがあります。

Roderick Andal Perez

株式会社キッツ カスタマー技術部 エンジニアリンググループ



キッツの社員は皆が一生懸命に働き、お互いを尊重し合っています。優しい同僚と良い環境のおかげで、毎日、気持ち良く働くことができます。キッツで働くということは、グローバルで活躍できるチャンスがあるということでもあります。

自分の経験を伝えることで、他の社員の成長に役立ちたいと思います。

Maria Luisa Ribas Steegmann

KITZ Corporation of Europe, S.A.  
Managing Director & President



キッツグループは私を信頼し、グループの1社の経営を任せてられています。この10年で、私はプロフェッショナルとして成長し、専門以外の分野にも視野を広げることができました。この経験を他の社員にも伝えていくことで、彼らの成長に役立ちたいと考えています。

企業にとっての「人財」の大切さを改めて感じています。

岡部 由紀子

株式会社キッツ 総務人事部 人財開発グループ長

人事部門に異動したことにより、企業にとっての「人財」の大切さを改めて感じています。多様な人財一人ひとりがより輝ける会社になるためには、会社として何ができるのか、社員にとって何が必要なのかを常に念頭に置いて、日々の業務に取り組んでいます。



65年の歴史と想いを引き継ぎ大きな使命感とともに戦っています。

野澤 大志

KITZ Valve & Actuation (Thailand) Co., Ltd.  
Managing Director

私が入社した時、キッツはすでに国内でバルブのトップメーカーとしての地位を確立していました。そして現在、私たちは創業65年の歴史と想いを引き継ぎ、そのバトンを未来に、世界につなぐため、私も大きな使命感とともに海を渡り戦っています。この看板を背負っての挑戦こそが、私がキッツで働く喜びです。



改善の効果が目に見えた時にはやりがいを感じます。

南 淳也

株式会社キッツ 長坂工場 U製造部



生産効率を上げるための改善活動を行っています。1台当たりの加工工程を短縮させるなど、改善の効果が目に見えた時にはやりがいを感じます。

語学力を磨き、英語を使う仕事にもチャレンジしたいと思います。

上野 麻里絵

株式会社キッツ プロジェクト営業部 プロジェクト第二営業所



時間をかけて、お客様と仕様を打ち合わせ、ご注文をいただき、無事に商品が納入された時にはとてもやりがいを感じます。

語学力を磨き、英語を使う仕事にもチャレンジしたいと思っています。

ブラジルでさらに鑄造の経験を積み、さらなるスキルアップを目指します。

佐藤 芳樹

Metalúrgica Golden Art's Ltda.  
MTA Foundry Factory Chief Production Engineer



入社以来、製造の要である鑄造に携わっています。私は、2015年にM&Aによりグループに加わったブラジルのバルブメーカーの鑄造工場を担当することになり1年前に赴任しました。ここで、さらに経験を積んでキッツグループに貢献できるスキルを身に付けたいですね。

二つの異なる文化の橋渡し役にやりがいを感じています。

美田 静佳

KITZ Corporation of America  
Chief Accounting Officer



米国の販売会社で経理の責任者を任されています。私は英語と日本語の両方を理解できるので、キッツとの橋渡し役をする場面も多くあります。二つの異なる文化の間で、お互いを正しく理解することはとても重要であり、これは私の仕事の中で最も困難なことですが、やりがいを感じています。

これからも人と人をつなぐ役割を果たしていきたいと思っています。

下山 牧子

株式会社キッツエスシーティー 管理部 総務経理課

育児休業を取得し、職場復帰して仕事を続けています。理解ある上司、仲間に恵まれ、子育てと仕事を両立しながら、楽しく働くことができます。これからも「感謝の気持ち」、「向上心」、「笑顔」を忘れず、人と人をつなぐ役割を果たしていきたいと思っています。



バルブに対する好奇心は尽きることがありません。

石井 友晴

株式会社キッツ プロダクトマネジメントセンター PCA事業推進部長

重点市場分野攻略のための戦略立案と新製品の市場投入に携わっています。提携企業、調達先からユーザーまで、キッツに関わる多くの方々に幸せを感じてもらえるように、日々努力しています。

バルブはさまざまな産業で使われ、また、多くの技術が集積しており、好奇心が尽きることがありません。



上司からの「何でもやっごらん」という言葉は、今でも忘れられません。

石原 祐樹

株式会社キッツ 海外業務部



私は入社して1年半足らずで、台湾エリアのお客様を1人で担当することになりました。その時の、上司からの「何でもやっごらん」という言葉は、今でも忘れられません。私達の競争相手は「世界」にいます。競合メーカーよりもクリエイティブな、世界で通用する営業マンを目指します。

やる気次第で自分の可能性を広げていくことができます。

白木 祥子

株式会社キッツ プロジェクト設計部 プロジェクト設計第一グループ



キッツには「女性だから」という否定的な考えはありません。やる気次第で、性別・年齢にとらわれることなく活躍できます。自分の可能性をもっと広げ、自分の力を社会に還元し貢献していきたいと思っています。

# キッツグループのESG

ESG : Environment (環境)、Social (社会)、Governance (ガバナンス)





# 経営体制

(2017年6月27日現在)

## 取締役

代表取締役社長 **堀田 康之**



1955年6月18日生

1978年 3月 当社入社  
 1997年 1月 営業本部中部支社長  
 2001年 4月 長坂工場長  
 2001年10月 株式会社キッツエスシーティー常務取締役  
 2004年 6月 同社代表取締役社長  
 2006年 4月 当社常務執行役員、バルブ事業部長  
 2007年 4月 専務執行役員、バルブ事業部長  
 2007年 6月 取締役、専務執行役員、バルブ事業部長  
 2008年 6月 代表取締役社長、社長執行役員、バルブ事業部長  
 2009年 4月 代表取締役社長、社長執行役員、現在に至る

取締役 **名取 敏照**



1957年1月20日生

1980年 3月 当社入社  
 1999年10月 生産本部茅野工場長  
 2004年 4月 株式会社キッツメタルワークス常務取締役  
 2009年 7月 同社代表取締役社長  
 2010年 4月 当社執行役員、生産本部長  
 2011年 6月 取締役、執行役員、生産本部長  
 2013年 4月 取締役、常務執行役員、バルブ事業統括本部長  
 2014年 4月 取締役、専務執行役員、バルブ事業統括本部長、現在に至る

取締役 **村澤 俊之**



1959年2月9日生

1981年 3月 当社入社  
 2001年 4月 経営企画部長  
 2009年 4月 執行役員、経営企画部長  
 2011年10月 執行役員、経営企画本部長  
 2016年 6月 取締役、執行役員、管理本部長、現在に至る

取締役(社外) **松本 和幸**



1945年9月21日生

1970年 4月 帝人製機株式会社入社  
 2001年 6月 同社取締役  
 2003年 9月 ナプテスコ株式会社執行役員  
 2004年 6月 同社取締役  
 2005年 6月 同社代表取締役社長  
 2011年 6月 同社取締役会長  
 同社相談役  
 株式会社トプコン社外取締役、現在に至る  
 当社取締役、現在に至る

取締役(社外) **天羽 稔**



1951年12月9日生

1979年 4月 デュポンファーイースト日本支社  
 (現デュポン株式会社)入社  
 2000年 3月 デュポン株式会社取締役  
 2002年 3月 同社常務取締役  
 2004年 3月 同社専務取締役兼  
 エンジニアリングポリマー事業部  
 アジア太平洋地域リージョナルディレクター  
 2005年 7月 同社取締役副社長  
 2006年 9月 同社代表取締役社長  
 2013年 1月 同社代表取締役会長兼  
 デュポンアジアパシフィックリミテッド社長  
 2014年 9月 デュポン株式会社名誉会長  
 2015年 6月 当社取締役、現在に至る  
 2016年 3月 大塚化学株式会社監査役、現在に至る

取締役(社外) **藤原 裕**



1951年4月20日生

1974年 4月 三井海洋開発株式会社入社  
 1987年 4月 安田信託銀行株式会社  
 (現みずほ信託銀行株式会社)入社  
 1994年 8月 同社ニューヨーク副支店長  
 1996年 6月 同社シカゴ支店長  
 1998年 8月 オムロン株式会社入社  
 2005年 6月 同社執行役員財務IR室長  
 2007年 3月 同社執行役員グループ戦略室長  
 2008年12月 同社執行役員常務IR企業情報室長  
 2013年 6月 ナプテスコ株式会社社外取締役、現在に至る  
 2017年 6月 当社取締役、現在に至る

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人財の力

キッツグループのESG

データ編

## 監査役

常勤監査役 **近藤 雅彦**



1952年9月8日生

1977年 8月 当社入社  
 2000年 7月 総務人事部長  
 2004年 4月 執行役員、総務人事部長  
 2010年 4月 執行役員、管理本部副本部長  
 2012年 6月 取締役、執行役員、管理本部長  
 2014年 4月 取締役、常務執行役員、管理本部長  
 2016年 6月 常勤監査役、現在に至る

常勤監査役 **木村 太郎**



1959年8月4日生

1991年12月 当社入社  
 2001年 6月 経理部長  
 2010年 4月 管理本部経理統括部長  
 2011年 4月 執行役員、管理本部副本部長  
 2017年 6月 常勤監査役、現在に至る

監査役(社外) **高井 龍彦**



1952年2月3日生

1974年 7月 三井金属鉱業株式会社入社  
 2004年 6月 同社執行役員財務部長、  
 三井金属エンジニアリング株式会社社外監査役  
 2007年 6月 三井金属鉱業株式会社最高財務責任者(CFO)兼  
 上席執行役員財務部長  
 2008年 6月 同社常勤監査役  
 2011年 6月 株式会社ナカボーテック社外監査役  
 2015年 6月 当社監査役、現在に至る

監査役(社外) **作野 周平**



1954年2月17日生

1977年 4月 株式会社横河電機製作所(現横河電機株式会社)  
 入社  
 1999年10月 同社関連会社統括室長  
 2005年 4月 同社執行役員  
 経営管理本部経理財務センター長  
 2008年 6月 同社常務執行役員経営監査本部長  
 2016年 6月 横河ソリューションサービス株式会社監査役、  
 現在に至る  
 2017年 6月 当社監査役、現在に至る

### ● 取締役及び監査役の選任理由

	氏名	在任期間	選任理由
取締役	堀田 康之	10年	2008年に当社代表取締役社長に就任して以来、経営トップとしての強いリーダーシップを発揮し、当社グループのグローバル化とコーポレート・ガバナンスの強化を推し進めてきました。これらの知見及び経験は、当社グループの企業価値の向上に貢献するものであると判断しました。
	名取 敏照	6年	当社生産部門担当の執行役員やグループ会社社長を歴任し、2011年に当社取締役役に就任して以来、バルブ事業を統括してきました。これらの知見及び経験は、当社グループの企業価値の向上に貢献するものであると判断しました。
	村澤 俊之	1年	当社経営企画部門担当の執行役員やグループ会社取締役を歴任し、経営計画の企画・立案を行うなど、グループ一体となった経営を牽引してきました。これらの知見及び経験は、当社グループの企業価値の向上に貢献するものであると判断しました。
	松本 和幸	4年	長年にわたり、ナプテス株式会社の経営者として活躍され、企業経営者としての豊富な経験に加え、技術戦略に関する幅広い見識を有しておられることから、当社グループの企業価値の向上に貢献していただけると判断しました。
	天羽 稔	2年	長年にわたり、グローバルに事業を展開するデュボン株式会社の経営者として活躍され、企業経営者としての豊富な経験に基づく高い見識を有しておられることから、当社グループの企業価値の向上に貢献していただけると判断しました。
社外	藤原 裕	新任	金融機関を含む上場企業において、財務部門及びIR部門の責任者として豊富な知見を備えておられることに加え、海外駐在の経験により、グローバルな観点からの経営管理にも高い見識を有しておられることから、当社グループの企業価値の向上に貢献していただけると判断しました。
監査役	近藤 雅彦	1年	グループ会社を統括する管理部門担当の取締役として当社の経営に携わり、経営基盤の強化やグループリスクマネジメント体制の構築及び強化を推し進めてきました。これらの事業経営、労務・会計・財務に関する知見及び経験が、当社の監査に反映されることが期待できると判断しました。
	木村 太郎	新任	長年にわたり、当社経理・財務部門を主管するとともに、グループ会社を統括する管理部門担当の執行役員として、内部統制システムの整備と内部監査機能の強化に加え、リスクマネジメント体制の構築を推し進めてきました。これらの内部統制、リスク管理等及び会計・財務に関する知見及び経験が、当社の監査に反映されることが期待できると判断しました。
	高井 龍彦	2年	三井金属鉱業株式会社において、長年同社の経理業務を担当されたのち、最高財務責任者(CFO)等を歴任され、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しておられ、また、同社常勤監査役としての豊富な経験を当社の監査に反映していただけると判断しました。
	社外	作野 周平	新任

# 執行役員

社長執行役員 **堀田 康之**  
 専務執行役員 **名取 敏照**  
 執行役員 **村澤 俊之**



執行役員 **下平 和彦**  
 1953年5月31日生

1977年 3月 当社入社  
 1999年11月 法務知的財産部長  
 2009年 4月 執行役員、管理本部法務知的財産部長  
 2011年 4月 執行役員、法務部長、現在に至る



執行役員 **坂根 哲夫**  
 1955年7月23日生

1980年 3月 当社入社  
 2001年 4月 汎用弁事業本部中国支店長  
 2011年 4月 営業本部大阪支社長  
 2014年 4月 執行役員、国内営業本部長、現在に至る



執行役員 **小山 順之**  
 1959年3月9日生

1984年 3月 当社入社  
 2007年 4月 生産本部生産技術部長  
 2008年10月 生産本部SC製造部長  
 2013年 4月 生産本部生産技術センター長  
 2015年 4月 執行役員、CS統括センター長、現在に至る



執行役員 **葛城 健志**  
 1956年10月31日生

1999年 6月 Panasonic Australia Pty. Ltd. (Finance Director)  
 2006年 5月 パナソニック株式会社海外部門制度グループ  
 グループマネージャー  
 2008年 1月 Panasonic Consumer Electronic Company,  
 a division of Panasonic North America Corp.,  
 (Vice President)  
 2009年10月 パナソニック株式会社監査部監査人  
 2011年 4月 同社海外部門海外経理センター所長  
 2012年 1月 Panasonic Europe Ltd. (Director, CFO)  
 2016年 8月 当社入社  
 2017年 4月 執行役員、管理本部副本部長、現在に至る

執行役員 **平島 孝人**



1959年9月10日生

1985年 3月 当社入社  
 2002年 7月 生産本部諏訪工場長  
 2004年 4月 株式会社キッツマイクロフィルター取締役  
 2006年 4月 同社代表取締役社長  
 2011年 4月 当社執行役員、技術本部長  
 2012年 6月 取締役、執行役員、技術本部長  
 2017年 4月 執行役員、技術本部長、現在に至る

執行役員 **平林 一彦**



1959年8月6日生

1982年 3月 当社入社  
 2004年 4月 生産本部生産企画部長  
 2012年 4月 生産本部副本部長  
 2013年 4月 執行役員、生産本部長、現在に至る

執行役員 **小出 幸成**



1959年1月15日生

1982年 3月 当社入社  
 1999年 8月 三吉バルブ株式会社常務取締役  
 2004年12月 国内営業本部中部支社長  
 2008年 4月 国内営業本部営業企画部長  
 2013年 4月 バルブ事業統括本部事業企画部長  
 2015年 4月 執行役員、IT統括センター長、現在に至る

執行役員 **栗原 等**



1957年12月14日生

1981年 3月 当社入社  
 1998年 3月 汎用弁事業本部中国支店長  
 2001年 4月 汎用弁事業本部東京支社長  
 2005年 4月 執行役員、国内営業本部長  
 2012年 6月 取締役、執行役員、営業本部長  
 2014年 4月 KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd. Chairman  
 2017年 4月 執行役員、経営企画本部長、現在に至る

執行役員 **田草川 勝**



1962年10月4日生

1991年 3月 当社入社  
 2004年 4月 技術本部開発第三部長  
 2007年 4月 技術本部研究部長  
 2008年 4月 技術本部第二設計部長  
 2010年 4月 技術本部商品開発部長  
 2015年 4月 生産本部生産技術センター長  
 2017年 4月 執行役員、プロダクトマネジメントセンター長、現在に至る

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キッツグループのESG

データ編



# コーポレート・ガバナンス

## 基本的な考え方

キッツは、創造的かつ質の高い商品・サービスの提供により持続的に企業価値の向上を図ることを企業理念に掲げ、社会的に責任ある企業として、株主の皆様をはじめ、全てのステークホルダーに配慮した経営の実現に努めることとしています。

また、迅速かつ効率が良く、健全で透明性の高い経営の実現とコンプライアンスの強化を図るため、さまざまな施策を講じ、コーポレート・ガバナンスの充実を図ることであります。

## 取締役会・取締役

取締役会は、株主に対する受託者としての責任を踏まえ、キッツグループの持続的成長と中長期的な企業価値の向上を目指し、経営方針、中長期経営計画及び各年度の事業計画等を含む経営上の重要事項の審議・決定と業務執行の監督を行うとともに、グループ全体の内部統制システムの構築の責務を担っています。

また、取締役会は業務執行取締役3名と社外取締役3名の計6名で構成されており、原則として毎月開催し、取締役会規程に定められた付議事項についての審議・決議を行う他、経営上の重要な諸課題について闊達な議論を行っています。なお、取締役の任期は、意思決定の迅速化と業務執行責任の明確化を図るため1年としています。

社外取締役は、企業経営に関する豊富な経験と幅広い見識を有し、取締役会の経営判断や意思決定に加わる他、当社の経営判断に対する適切な助言及び業務執行の監督の役割を果たしています。

なお、取締役会は、毎年、取締役及び監査役を対象とする取締役会の実効性に関するアンケート調査を実施しており、当該調査結果を踏まえ、取締役会の実効性向上のための課題について建設的な議論を行っています。

## 監査役会・監査役

監査役会は、法令、定款及び諸規程などにに基づき、監査役会が策定した監査役監査基準及び監査計画等に従い、取締役の意思決定の過程や職務執行状況の監査を行う他、四半期ごとに会計監査人から会計監査の結果について報告

を受けています。また、内部監査、会計監査及び監査役監査の三つの監査の連携を図るため、外部会計監査人、監査役及び内部監査室は「三様監査会合」を定期的で開催し、各監査機関の報告及び意見交換を行うなど、頻繁かつ直接的な連携がとれる体制としています。さらに、外部会計監査人、監査役及び内部監査室に独立社外取締役を加えた四者で構成する「四様監査・監督会合」を設け、これを定期的で開催し、連携の確保を図っています。

また、監査役は取締役会に出席し、取締役会の意思決定の状況及び各取締役の監督義務の履行状況を監視・検証している他、重要な会議への出席や事業所・子会社の往査に加え、取締役、執行役員及び従業員などからの情報聴取などを通じて、取締役の業務執行について監査しています。

監査役会は、現在、常勤監査役2名と社外監査役2名の計4名で構成しており、原則として毎月開催しています。

社外監査役は、企業経営に関する豊富な経験と幅広い見識を有しており、中立的・客観的な視点から監査を行うことにより、経営の健全性を高めています。なお、財務・会計に高度な専門知識を有する監査役を1名以上選任することとしています。

また、監査役会は、監査役の業務をサポートするため、監査役室を設置し、専任のスタッフが監査役の指示により情報収集や調査などを行う他、会計監査人及び内部監査室との連携を図っています。

## 経営会議・執行役員

キッツは、執行役員(業務執行取締役を含む)で構成する経営会議を原則として毎月開催し、経営上の重要事項について、戦略的かつ多面的な検討を経て方針決定を行っています。また、キッツは、取締役会が経営方針・経営計画などの経営全般に係る重要事項についての議論をより集中して行えるよう、取締役会への付議事項の基準を見直し、執行役員への権限移譲を進めています。

## 取締役・監査役・執行役員の指名

取締役候補者、監査役候補者及び執行役員の指名は、過半数を社外取締役で構成する「指名委員会」(取締役会の諮問機関)において、人格、能力・見識・経験・専門性・実績、

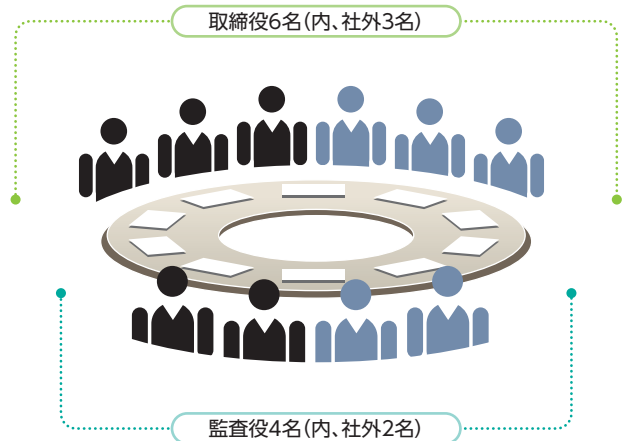
公正性及び年齢など多角的な観点から候補者を選定し、その答申を踏まえ、取締役会にて決定しています。なお、監査役候補者については、監査役会の同意を得ています。

### 社外役員の独立性

取締役会は、「社外役員の独立性判断に関する基準」を定めており、キッツの社外取締役及び社外監査役の全員がその基準を満たしています。また、全員が東京証券取引所が定める独立性判断基準を満たしており、東京証券取引所に独立役員の届け出を行っています。

### 取締役・執行役員の報酬

キッツは、取締役(社外取締役を除く)及び執行役員の報酬について、業績連動型株式報酬制度を導入しています。本制度における取締役及び執行役員の報酬は、従来の月額報酬と賞与の一部を業績連動に応じて当社株式を交付する、いわゆる「株式報酬」とするもので、取締役及び執行役



員の報酬とキッツの株式価値との連動性をより明確にし、中長期的な業績向上と企業価値増大への貢献意識を高めることを目的としています。なお、賞与は、内規に基づく一定の条件を満たし、適正な利益確保が行われた場合に支給するものとし、その原資は、親会社株主に帰属する当期純利益の1%を目途としています。また、過半数を社外取締役に構成する「報酬委員会」(代表取締役の諮問機関)を設置し、報酬方針及びその内容についての審議を行い、必要に応じて代表取締役に答申しています。

### ● コーポレート・ガバナンスへの取り組み

	1990年	2000年	2010年
監督と執行の分離	定款に定める取締役員数20名	99年 12名に改定	05年 9名に改定
社外取締役		01年 1名	11年 2名
社外監査役	1名	00年 2名	17年 3名
取締役会の運営等			06年 取締役任期を1年とする 16年 取締役会の実効性自己評価を実施
諮問委員会等		99年 投融資審査委員会を設置 02年 C&C管理委員会を設置	07年 内部統制委員会を設置 17年 報酬委員会を設置 17年 指名委員会を設置
報酬制度		04年 役員退職慰労金制度を廃止	16年 業績連動型株式報酬制度を導入
統合報告書			16年 コーポレートレポート(統合報告書)2016発行
企業理念	92年 キッツ宣言を制定	01年 新キッツ宣言を制定	06年 新キッツ宣言を改定

※C&C: クライシス&コンプライアンス

# 社外取締役メッセージ

## 持続的な利益ある成長と、さらなるグローバル企業への進化を支援していきたいと考えています。

コーポレート・ガバナンスには、不祥事を防ぐ、企業の収益性を強化する、の二つの目的があるとされていますが、変化が激しく、「企業の寿命30年」の時代と言われる中で、キッツは昨年、創業65周年を迎えており、企業の永続性を大事に考えていると感じています。老舗企業の共通項は、顧客志向であること、自社の強みを磨き活かすこと、不易流行を絶えず振り返り実行することだと思います。それを念頭に置いて、社外取締役として私が大切にしたいことは、多様な視点で忌憚のない、アクセルとブレーキ両面からの意見具申を通して、キッツの持続的な利益ある成長と、さらなるグローバル企業への進化を支援することだと思っています。

幸い、キッツの事業分野である「水」と「エネルギー」は成長が期待できます。また、ガバナンス面でも情報の開示や意見具申に真剣に対応してくれています。今後は顧客の真の困りごとに気付くために外部との接点を大切に、困りごとへの独自のソリューションを試行錯誤しながら提案し、顧客とともにソリューションの完成度を高めていくこと

## 全てのステークホルダーに信頼していただけるよう、社外取締役として引き続き努力してまいります。

社外取締役の重要な役割は、異なる見方・考え方を提供すること、厳しい意志決定の後押しをすること、そして人財育成という観点から重要ポジションの後継者選定に貢献することだと思っています。社外取締役が効果的に機能するための運営上のポイントは、多くの情報を提供すること、事前の説明をすること、食事会のようなインフォーマルな場で直接会話する機会を持つこと、中長期戦略の意見交換の場を持つこと、そして工場・支店等の視察の機会を多く持つことではないかと考えます。また、取締役会の議題の選び方に関しても、社外取締役は付加価値を与えられるか、ということが必要だと思います。

私は、2015年にキッツの社外取締役に就任しましたが、取締役会や工場の視察を通じて、非常に真摯にガバナンス体制を構築しており、経営の透明性及び客観性が確保できていると感じますし、中長期戦略においては、市場の変化を積極的に捉え、持続ある成長を求め、常に企業価値の向上を目指していると評価しています。

昨今、コーポレート・ガバナンス改革が活発化しています



松本 和幸  
社外取締役

そ重要だと思います。このために大事なことは、何のために事業を行うのか、誰のための事業なのか明白であること、対話を通し相互信頼・相互尊敬の素直な関係を基本としたチームであること、優先順位を常に意識して資源の有効活用を図ること、透明性の下、マイナス情報も含め縦横十文字でのスピーディーな情報伝達を当たり前にするのだと思います。

キッツが大事にしている「キッツ宣言」と「行動指針」に沿った判断と行動を、さらに心掛けていくことを期待しています。



天羽 稔  
社外取締役

が、重要なポイントが三つ挙げられると思います。一つ目は取締役・執行役員の指名に関する基本ルールを尊重すること、二つ目はセキュリティプロテクション、三つ目は社外取締役を複数名選任することです。例えば社外取締役の指名に関して言えば、社長・会長と個人的な友好関係にないこと、役員報酬に固執したり保身に走ったりしないこと、そして社外取締役の経験があることなどがそれに当たります。

今後も持続ある成長を達成し、全てのステークホルダーに信頼していただけるよう、社外取締役として引き続き努力していきたいと思っています。



# 内部統制システム

## 基本的な考え方

キッツは、適切な内部統制システムを構築することは、株主の皆様をはじめとする全てのステークホルダーの期待や信頼に応えるための基本条件であって、取締役会の重要な責務であると考えており、内部統制システム構築の基本方針に基づき、グループが一体となって内部統制システムの整備と運用に取り組んでいます。

## 内部統制の整備・運用

キッツは、金融商品取引法に基づき、財務状況をはじめとする経営内容の透明性を高めるため、キッツ及びグループ会社において、各部門による内部統制の自己点検を行うとともに、内部統制構築の状況について内部監査を実施し、内部統制の整備・運用の定着を図っています。

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人財の力

キッツグループのESG

データ編

# コンプライアンスの推進及びリスクマネジメント

## コンプライアンスの推進

キッツは、コンプライアンス経営を行うことは企業が持続的に発展するための基本かつ必須の条件であると認識しています。

そのため、企業理念である「キッツ宣言」を定め、その「行動指針」のトップに「Do it True (誠実・真実)」を掲げています。また、コンプライアンス意識の高揚と知識の向上を図るため、さまざまな取り組みを行っています。

行動規範、内部通報制度、コンプライアンス教育及び違反者に対する懲罰等をプログラム化したグループ共通の「コンプライアンス・ガイドブック」を作成し、キッツ及びグループ会社の役員・社員に配布しています。

また、コンプライアンス意識の高揚と知識の向上を図るため、法令及び法務に関する教育セミナーの開催を毎年計画的に行っています。

## リスクマネジメント

キッツは、企業活動に伴うさまざまなリスクをコントロールすることは経営の重要な課題であると認識しています。そのため、事業活動における多種多様なリスクを的確に把握・分析し、リスクの顕在化を未然に防止・抑制する施策の検討及び実施を行うとともに、危機発生に迅速かつ的確に対応するための体制整備にグループを挙げて取り組んでいます。

## 内部通報・相談窓口の設置

キッツは、通常の内部統制システムやコンプライアンス体制において把握できない内部情報を収集するため、内部通報制度を整備し、運用しています。この制度は、キッツまたはグループ会社の役員・社員から、法令を含むコンプライアンス行動規範に違反する行為に関する情報を、コンプライアンス・インフォメーション・デスク(通報窓口・社内名称「CID」)が受け付ける仕組みです。

なお、CIDは、グループ会社ごとに設置している他、グループ共通としてキッツ及び顧問弁護士事務所にそれぞれ設置しています。CIDが通報を受け付けた場合は、通報者の秘密を厳格に保護しながら、グループ各社の代表取締役社長を委員長とするC&C管理委員会が迅速かつ適切な措置を講ずる体制としています。

## C&C管理委員会

キッツは、代表取締役社長を委員長とするC&C(クライシス&コンプライアンス)管理委員会を2002年に設置し、経営リスクの未然防止、危機対応及びコンプライアンス経営の徹底を図るため、その方針策定と施策の実施に取り組んでいます。

## 個人情報の保護

キッツは、2004年12月に個人情報保護方針を定め、個人情報保護の取り組みを開始し、個人情報の厳格な管理を徹底しています。

## コンプライアンス教育

キッツは、コンプライアンス経営の徹底を図るため、コンプライアンス経営の重要性、基本方針、コンプライアンス

# 環境活動

キッツは、キッツグループ環境理念及び環境行動方針に基づき、環境保全に向けた取り組みを行っています。

## キッツグループ環境理念

キッツグループは、環境に配慮した商品・サービスの提供と事業活動の推進により、社会から信頼される企業を目指します。

## キッツグループ環境行動方針

環境を経営の重要な視点として意識し、一人ひとりの社員が次の施策に積極的に取り組みます。

1. 環境に配慮した商品・サービスの開発と提供
2. 資源の有効活用
3. 廃棄物の削減と再使用・再利用の推進
4. 環境汚染の防止・予防

## 環境に配慮した商品・サービスの開発と提供

独自の環境開発方針及び環境負荷低減ガイドラインを制定し、中長期的な視点に基づいて、環境負荷の少ない製品開発に取り組んでいます。

海水淡水化事業向け高耐食性合金バルブ（株）キッツ  
二相合金(Super Duplex材料:SDPV)を使用した高耐食性合金バルブ。従来品として多く用いられていたアルミブロンズ製に比べ、耐食性に優れています。国内外の海水淡水化プラント等で使用されています。



小規模水道用浄水処理装置アクアシリーズ  
山間部の水利用に貢献する浄水装置  
(株)清水合金製作所

目詰まりが起こりにくく、長期間安定したろ過性能を発揮する膜ろ過方式を採用。耐塩素性を有するクリプトスポリジウム等の原虫や不純物を確実に除去します。装置はコンパクト設計で、処理水量や原水水質に応じた機種選択が可能です。無人・自動運転にも対応し、山間部の水質改善に最適な効果を発揮します。

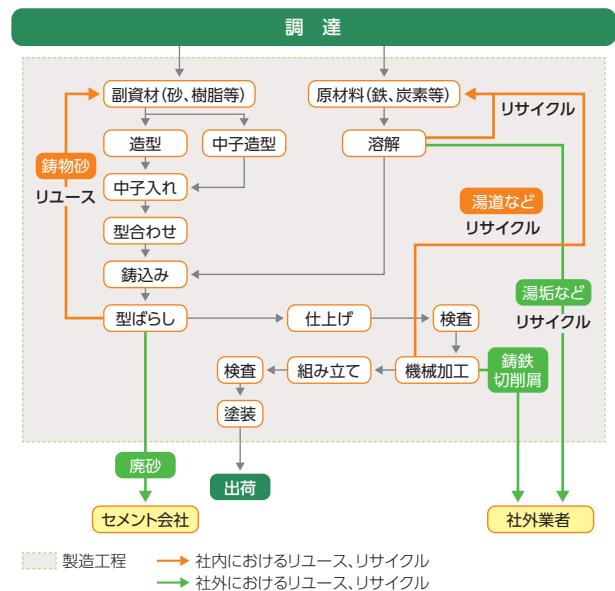


## 資源の有効活用

バルブは、自然資源である金属素材を主要材料としています。キッツでは、一度使用された金属製品のスクラップを原材料の一部として使用する他、長年培ったノウハウを活かし、製造工程で発生する端材や切粉(切削屑)を原材料とし

て還元するよう努めています。また、鑄造工程で使われる鑄物砂については、砂処理工程において、塊を砕いたり、ふるいで分別したりするなどの処理を経て再利用しています。繰り返し使用された鑄物砂は、基準粒径より小さくなると廃棄物となりますが、廃棄された鑄物砂はセメントの補助材として利用されます。キッツでは、地球環境との共存を目指し、限りある資源の有効活用を推進しています。

### ● 鑄鉄製バルブの省資源化の流れ

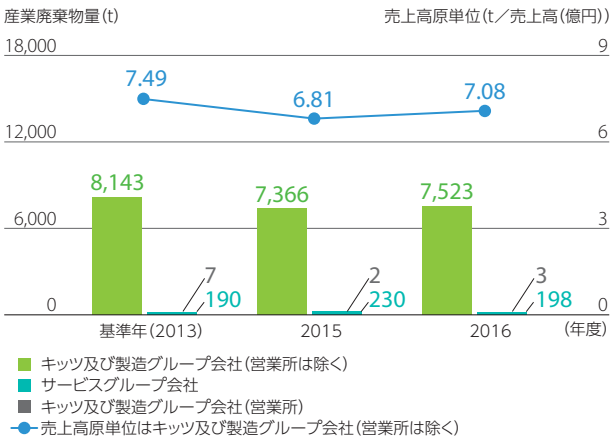


## 廃棄物の削減と再使用・再利用の推進

リデュース(廃棄物を出さない・持ち込まない)、リユース(再生が可能な廃棄物は再生ラインに戻す)、リサイクル(分別し再資源化する)、再利用できないものについては「適正に処分する」ことに取り組んでいます。廃棄物の分別を徹底し、有価物化を推進することにより、廃棄物発生量の抑制につなげています。

キットグループの生産活動から出る廃棄物の多くを占める産業廃棄物については、生産部門において、発生量の調査・分析をもとに、削減及び再利用化に取り組んでいます。また、キットグループの環境・安全についての情報を管理する「廃棄物管理システム」により、産業廃棄物の発生から最終処分までの工程をタイムリーに把握し、グループ内で共有しています。システムにおいて廃棄物の処分ルートがあらかじめ決められており、委託契約したルート以外では処分することができない仕組みを構築しています。

### ● 産業廃棄物量の推移



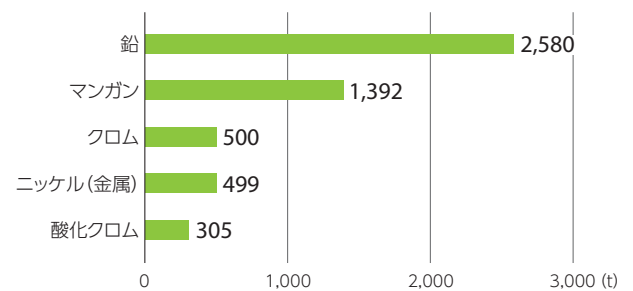
### 環境汚染の防止・予防

バルブの原料である金属材料や鋳物砂には、PRTR対象物質\*である、鉛、マンガン、クロム、ニッケル、酸化クロムが多く含まれています。大気に排出される主な物質は、塗料、シンナーや貯蔵ガソリンから発生するキシレン、トルエン、外部に移動する主な物質は、鋳物砂に含まれる酸化クロムが挙げられます。

キットでは、PRTR対象物質\*の他、化成品に含まれている危険・有害物質による環境汚染を回避するために、「化学物質管理システム」を2000年に構築。有害物質を含有する化成品の特定や代替化を進め、バルブ製品の安全性向上と環境負荷低減を図っています。

\*「人の健康や生態系に悪影響を及ぼすおそれがある」、「自然の状況で化学変化を起こし容易に有害な化学物質を生成する」、「オゾン層破壊物質」のいずれかの有害性の条件に当てはまり、かつ環境中に広く継続的に存在すると認められる物質。

### ● PRTR対象物質使用量(上位5種)



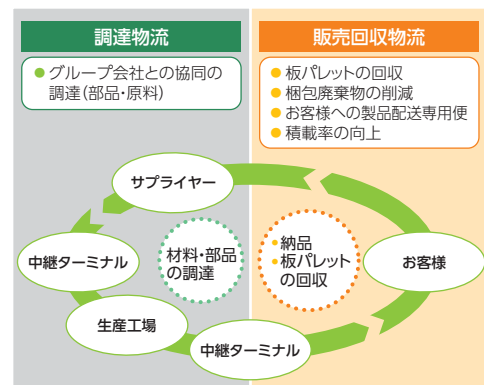
※年間取り扱い量1t未満、含有率1%未満のPRTR対象物質も集計しています。

### 物流のグリーン化

キットグループでは、循環型ロジスティクスを目指し、荷主と輸送業者が互いに協働しながら集荷や配達をする協同配送及び往路と復路で別の荷物を積み輸送効率を上げる統合配送を実施し、物流におけるCO<sub>2</sub>の削減に取り組んでいます。具体的には、グループ会社との協同配送専用便、輸送会社のネットワーク及び販売時の便を利用し、その戻り便で購入した調達部品や材料の配送も行っています。さらに、工場周辺に、輸送効率の高い配送・調達ネットワークを確立しています。これにより、幹線輸送距離の重複低減と積載率向上を図っています。

また、製品及び部品の輸送の際に、荷崩れ防止用に使用していたストレッチフィルムが、輸送先において廃棄物となることから、繰り返し使用できるネットを併用。荷崩れなどの検証を行いながら、ストレッチフィルム使用量の低減を図っています。また、一部製品においては「通い箱」での輸送を行い、廃棄物の削減を進めています。

環境負荷低減のため、今後もさらにCO<sub>2</sub>削減と梱包副資材の低減を進めてまいります。



荷の二段積み



ストレッチフィルムからネットに変更



# ステークホルダーとの対話

キッツは、株主、投資家をはじめ、お客様、ビジネスパートナー、社員、社会などのステークホルダーとの信頼関係を築くため、さまざまな活動を通して直接の対話機会を設けています。

建設的な対話によって得られた情報を経営陣に確実にフィードバックし、経営効率の改善や経営の透明性向上に向けた取り組みに反映させています。



## 株主との対話

定時株主総会招集通知については、法定期限よりも1週間程度早めて発送するとともに、発送に先立ってその内容をウェブサイトに掲載するなど、早期の情報開示に努めています。また、英語版をウェブサイトに掲載している他、株主様の利便性向上のため、インターネット等により議決権行使ができる体制を整えています。

## 個人投資家との対話

より多くの方にキッツのファン(株主)になっていただくことを目的に、個人投資家向けの説明会を年に複数回開催しています。また、ウェブサイトや株主通信によるタイムリーな情報発信の他、株主優待の充実にも努めています。



## 機関投資家との対話

機関投資家、アナリスト向けの決算説明会を四半期ごとに年4回開催し、社長から業績や中長期戦略について説明しています。

## お客様との対話

キッツグループの商品をより広く紹介するため、国内外の展示会に積極的に出展し、ブースを訪れたお客様からの質問にお答えしています。



## ビジネスパートナーとの対話

国内総合代理店社長会を年に1回開催しています。相互理解を促進し、代理店との連携をさらに深めています。

## 社員との対話

社長をはじめとする経営陣が、積極的に製造現場を訪れ、工場の社員とのコミュニケーションにより相互理解を深めています。

また、国内事業所において社内IR説明会を実施。業績や中長期戦略について分かりやすく解説しています。



## 地域との対話

長野県諏訪市は、創業者 北澤利男の出身地であり、現在もキッツグループの多くの事業所が近隣に所在しています。キッツは、全国から約8,000人のランナーが集まるイベント、諏訪湖マラソンに毎年協賛。2016年10月に開催された第28回大会の開会式では、スポンサーを代表して堀田社長が挨拶しました。



写真提供:長野日報



# 社会貢献活動

キッツは、地域振興(地域貢献)、環境保全、社会・国際貢献及び文化振興を活動分野としてさまざまな社会貢献活動に取り組んでいます。

地域振興(地域貢献)／環境保全 .....



## 九十九里海岸保安林の再生活動

「特定非営利活動法人 森のライフスタイル研究所」と協働し、東日本大震災の津波により被害を受けた千葉県山武市・蓮沼殿下海岸(九十九里海岸)の保安林を再生する活動を行っています。



## 里山再生～オオムラサキの森づくり

長坂工場が所在する山梨県北杜市のシンボル 国蝶「オオムラサキ」が棲める里山の再生を目指し、「特定非営利活動法人 自然とオオムラサキに親しむ会」が主催する植樹活動に参加しています。



## 茅野工場を災害時の避難所として提供

長野県茅野市と「災害時における避難者支援に関する協定」を締結しています。自然災害の発生時には、茅野工場の社員食堂を市民の皆様の一時的な避難所として提供します。



社会・国際貢献 .....



### 日本障害者パラアルペンスキーチームを支援

オフィシャルスポンサーとして日本障害者スキー連盟 パラアルペンスキーチームを応援しています。パラリンピックやワールドカップなど世界の大会で活躍できるよう選手を育成し、また、スキーを通して心身ともに自らの障がい克服し社会参加ができることを目的としています。

撮影: 業師 洋行氏

### TABLE FOR TWOプログラムに参加

開発途上国の飢餓と、先進国の肥満や生活習慣病の解消に同時に取り組む活動を社員食堂に導入しています。ヘルシーメニューを社員が食べることで、その価格に含まれる1食につき20円の寄付金が、アフリカの開発途上国の学校給食事業の支援に役立てられています。

写真提供: TABLE FOR TWO



文化振興 .....



### 北澤美術館の活動を支援

諏訪湖畔に位置する公益財団法人北澤美術館の活動を支援しています。北澤美術館では、19世紀末フランスのアール・ヌーヴォー期の世界第一級のガラス工芸品と現代日本画を中心に優れた作品を常時展示しており、国内外から高く評価されています。

# 主要財務データ

	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期
<b>会計年度</b>				
売上高合計	149,512	149,274	127,095	96,592
国内	120,580	119,654	100,001	76,403
海外	28,932	29,620	27,094	20,188
バルブ事業	99,284	99,118	89,627	70,611
伸銅品事業	41,895	40,886	28,247	16,218
その他	8,332	9,269	9,220	9,762
営業利益	11,342	11,615	7,188	6,976
経常利益	10,652	10,525	6,475	6,248
親会社株主に帰属する当期純利益	9,973	6,290	3,396	3,079
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,156	11,949	11,101	13,285
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,245	△ 3,288	△ 3,945	△ 4,525
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,272	△ 8,362	△ 1,470	△ 9,291

## 会計年度末

流動資産	57,225	55,432	51,030	47,421
固定資産	56,882	53,877	50,071	50,112
資産合計	114,107	109,310	101,101	97,533
流動負債	28,783	29,038	27,712	18,070
固定負債	32,713	26,933	22,476	25,616
負債合計	61,496	55,972	50,189	43,686
純資産合計	52,611	53,337	50,912	53,847
有利子負債	41,513	36,247	35,860	27,555
期末株価(円)	1,070	591	299	545

## 1株当たり情報

EPS(1株当たり当期純利益)	86.87	54.52	30.02	27.23
BPS(1株当たり純資産)	447.33	463.16	442.44	468.31
1株当たり配当金	15.00	15.00	9.00	7.00

## 財務比率(%)

営業利益率	7.6	7.8	5.7	7.2
ROE(自己資本当期純利益率)	21.4	12.1	6.6	6.0
ROA(総資産経常利益率)	9.9	9.4	6.2	6.3
自己資本比率	45.3	47.9	49.5	54.3
配当性向	17.3	27.5	30.0	25.7
連結総還元性向	17.3	53.2	30.0	25.7

2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
(単位：百万円)						
106,059	108,446	111,275	117,355	117,036	117,278	<b>114,101</b>
82,120	82,974	81,509	84,970	81,983	80,127	<b>80,207</b>
23,938	25,472	29,765	32,384	35,052	37,151	<b>33,893</b>
76,098	78,976	84,472	87,888	90,152	93,579	<b>91,766</b>
20,230	20,065	17,948	20,953	21,021	20,557	<b>19,333</b>
9,729	9,404	8,855	8,514	5,863	3,141	<b>3,002</b>
6,341	4,638	6,558	6,470	6,886	7,245	<b>8,929</b>
5,929	4,388	6,521	6,501	7,581	7,300	<b>8,799</b>
3,063	2,480	4,039	3,564	6,881	4,915	<b>5,400</b>
5,818	2,217	7,885	4,667	8,923	9,592	<b>12,979</b>
△ 2,907	△ 2,508	△ 4,519	△ 3,546	△ 1,010	△ 9,763	△ <b>2,141</b>
375	△ 6,638	△ 3,213	66	△ 3,706	796	△ <b>6,838</b>
(単位：百万円)						
52,036	47,247	49,956	55,866	63,884	63,501	<b>67,972</b>
48,101	47,734	50,016	51,717	51,905	55,920	<b>51,175</b>
100,138	94,981	99,972	107,583	115,790	119,422	<b>119,148</b>
26,521	20,182	21,149	20,703	25,740	19,040	<b>19,608</b>
20,184	20,309	18,603	20,101	14,556	24,284	<b>24,647</b>
46,705	40,491	39,752	40,805	40,296	43,325	<b>44,255</b>
53,433	54,489	60,219	66,777	75,493	76,096	<b>74,892</b>
30,165	24,290	22,319	23,728	21,426	25,008	<b>24,787</b>
400	360	472	505	594	487	<b>742</b>
(単位：円)						
27.36	22.71	36.98	32.63	63.22	45.50	<b>51.43</b>
480.88	490.65	542.41	601.56	686.47	700.17	<b>727.78</b>
7.00	7.50	9.50	10.00	13.00	13.00	<b>13.00</b>
6.0	4.3	5.9	5.5	5.9	6.2	<b>7.8</b>
5.8	4.7	7.2	5.7	9.8	6.6	<b>7.3</b>
6.0	4.5	6.7	6.3	6.8	6.2	<b>7.4</b>
52.5	56.4	59.3	61.1	64.2	62.9	<b>61.9</b>
25.6	33.0	25.7	30.6	20.6	28.6	<b>25.3</b>
74.1	33.0	25.7	30.6	27.6	38.8	<b>92.5</b>

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

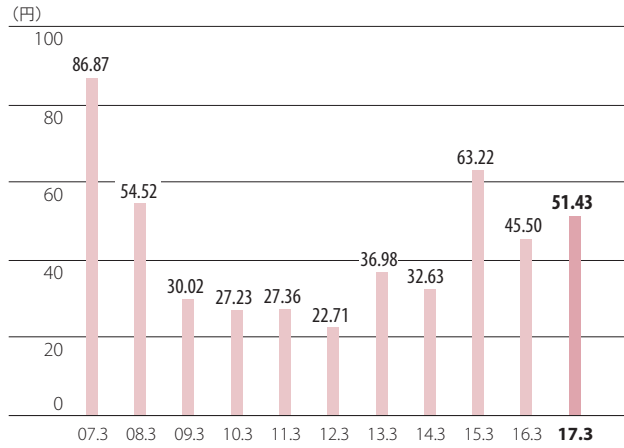
キックグループのESG

データ編

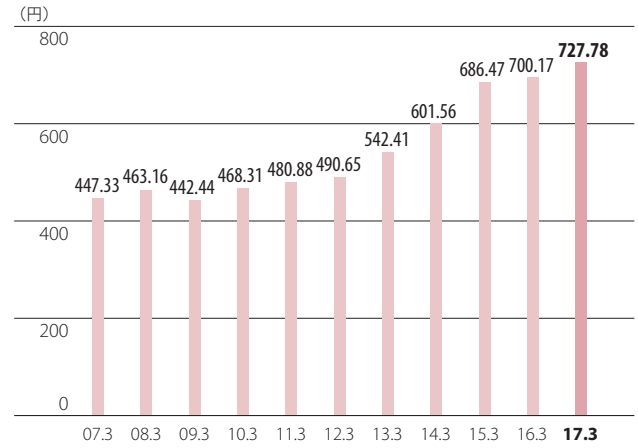


## 主要財務データ

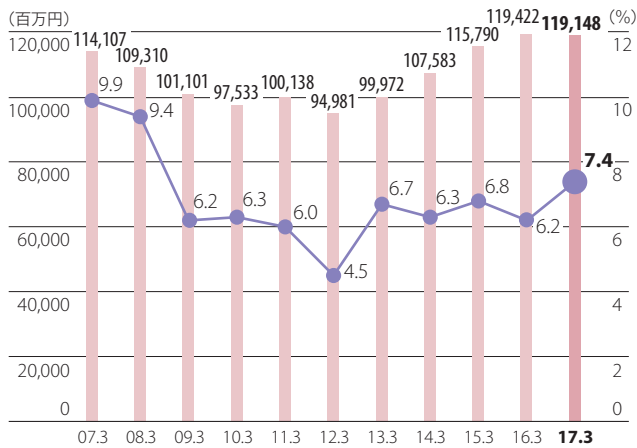
### ● EPS (1株当たり当期純利益)



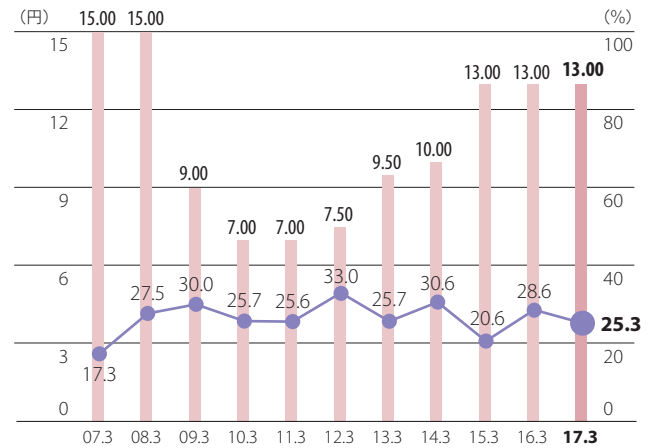
### ● BPS (1株当たり純資産)



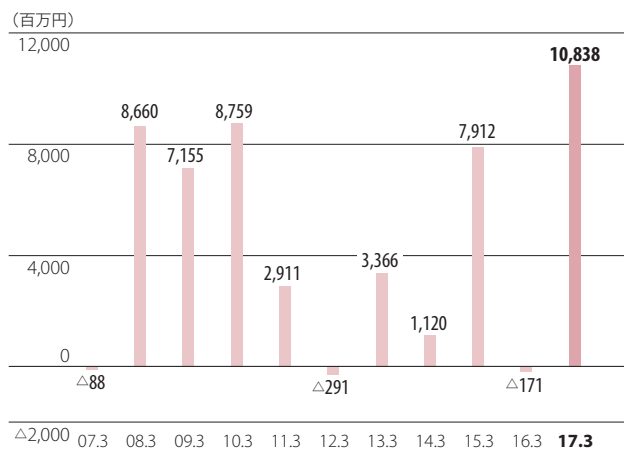
### ● 総資産 / ROA (総資産経常利益率)



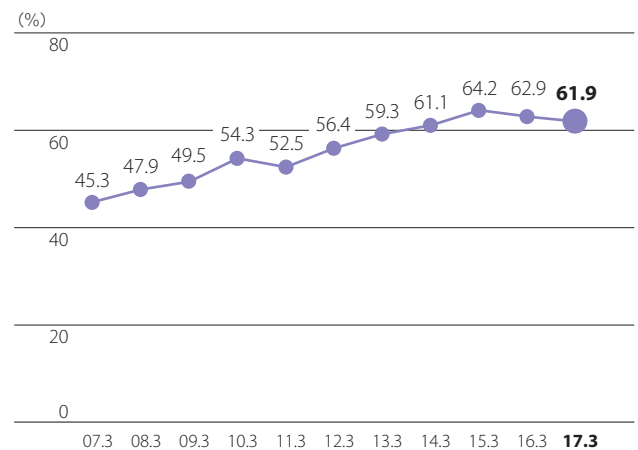
### ● 1株当たり配当金 / 配当性向



### ● フリーキャッシュ・フロー



### ● 自己資本比率



連結貸借対照表

(単位：百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
<b>資産の部</b>			
<b>流動資産</b>			
現金及び預金	14,036	14,649	18,181
受取手形及び売掛金	21,417	18,832	18,620
電子記録債権	5,044	6,657	7,272
商品及び製品	9,342	9,291	8,282
仕掛品	4,296	4,532	4,692
原材料及び貯蔵品	7,245	7,088	6,963
繰延税金資産	1,160	1,074	1,223
その他	1,370	1,442	2,803
貸倒引当金	△29	△68	△68
<b>流動資産合計</b>	<b>63,884</b>	<b>63,501</b>	<b>67,972</b>
<b>固定資産</b>			
<b>有形固定資産</b>			
建物及び構築物	11,180	12,090	8,310
機械装置及び運搬具	8,300	9,608	10,008
工具、器具及び備品	5,127	5,222	5,274
土地	10,944	11,063	9,812
建設仮勘定	827	570	1,064
その他	237	233	251
<b>有形固定資産合計</b>	<b>36,617</b>	<b>38,788</b>	<b>34,722</b>
<b>無形固定資産</b>			
のれん	1,459	2,396	2,323
その他	2,235	3,149	4,557
<b>無形固定資産合計</b>	<b>3,695</b>	<b>5,545</b>	<b>6,881</b>
<b>投資その他の資産</b>			
投資有価証券	8,887	8,505	6,108
退職給付に係る資産	99	99	174
繰延税金資産	125	101	127
その他	2,485	2,884	3,163
貸倒引当金	△5	△4	△3
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>11,593</b>	<b>11,586</b>	<b>9,571</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>51,905</b>	<b>55,920</b>	<b>51,175</b>
<b>資産合計</b>	<b>115,790</b>	<b>119,422</b>	<b>119,148</b>
			(単位：百万円)
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>			
買掛金	6,606	6,405	6,138
1年内償還予定の社債	6,630	799	904
短期借入金	1,658	2,025	1,496
1年内返済予定の長期借入金	2,942	2,788	2,452
未払法人税等	1,711	864	1,459
未払消費税等	515	280	553
賞与引当金	1,772	1,697	2,068
役員賞与引当金	159	169	163
その他	3,745	4,009	4,370
<b>流動負債合計</b>	<b>25,740</b>	<b>19,040</b>	<b>19,608</b>
<b>固定負債</b>			
社債	1,680	12,680	13,523
長期借入金	8,515	6,714	6,410
繰延税金負債	1,454	1,477	1,164
役員退職慰労引当金	309	282	352
役員株式給付引当金	-	-	36
退職給付に係る負債	295	344	413
資産除去債務	463	424	441
その他	1,837	2,360	2,305
<b>固定負債合計</b>	<b>14,556</b>	<b>24,284</b>	<b>24,647</b>
<b>負債合計</b>	<b>40,296</b>	<b>43,325</b>	<b>44,255</b>
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>			
資本金	21,207	21,207	21,207
資本剰余金	9,430	5,743	5,743
利益剰余金	41,618	45,118	49,138
自己株式	△4,407	△1,193	△5,042
<b>株主資本合計</b>	<b>67,849</b>	<b>70,875</b>	<b>71,046</b>
<b>その他の包括利益累計額</b>			
その他有価証券評価差額金	3,321	2,745	1,972
為替換算調整勘定	2,811	1,220	567
退職給付に係る調整累計額	306	228	204
その他の包括利益累計額合計	6,439	4,194	2,744
非支配株主持分	1,204	1,027	1,101
<b>純資産合計</b>	<b>75,493</b>	<b>76,096</b>	<b>74,892</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>115,790</b>	<b>119,422</b>	<b>119,148</b>

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キッツグループのESG

データ編

## 連結損益計算書

(単位：百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
売上高	117,036	117,278	114,101
売上原価	88,662	87,356	82,405
売上総利益	28,374	29,922	31,696
販売費及び一般管理費	21,487	22,676	22,767
営業利益	6,886	7,245	8,929
営業外収益			
受取利息	25	39	97
受取配当金	155	179	211
保険収入	177	131	133
受取和解金	259	-	-
為替差益	401	82	-
雑益	371	458	326
営業外収益合計	1,389	891	768
営業外費用			
支払利息	233	219	234
売上割引	330	386	376
手形売却損	24	23	23
為替差損	-	-	19
雑損失	107	206	244
営業外費用合計	695	836	898
経常利益	7,581	7,300	8,799
特別利益			
有形固定資産売却益	34	85	14
投資有価証券売却益	-	75	2,097
関係会社株式売却益	2,156	-	-
事業譲渡益	-	170	-
その他	0	6	40
特別利益合計	2,191	338	2,152
特別損失			
有形固定資産売却及び除却損	71	119	141
減損損失	167	-	3,756
その他	14	31	27
特別損失合計	253	151	3,925
税金等調整前当期純利益	9,519	7,488	7,025
法人税、住民税及び事業税	2,589	2,198	2,370
過年度法人税等	-	-	△622
法人税等調整額	△24	284	△238
法人税等合計	2,564	2,483	1,509
当期純利益	6,954	5,005	5,515
非支配株主に帰属する当期純利益	73	90	115
親会社株主に帰属する当期純利益	6,881	4,915	5,400

## 連結包括利益計算書

(単位：百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
当期純利益	6,954	5,005	5,515
その他の包括利益			
その他有価証券評価差額金	1,186	△576	△772
為替換算調整勘定	2,362	△1,639	△670
退職給付に係る調整額	120	△77	△23
その他の包括利益合計	3,670	△2,293	△1,466
包括利益	10,624	2,712	4,048
(内訳)			
親会社株主に係る包括利益	10,484	2,670	3,950
非支配株主に係る包括利益	140	41	98



## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>			
税金等調整前当期純利益	9,519	7,488	7,025
減価償却費	3,639	4,019	4,148
のれん償却額	215	327	438
為替差損益(△は益)	△96	79	37
投資有価証券評価損益(△は益)	0	0	-
投資有価証券売却損益(△は益)	-	△75	△2,082
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2	12	△4
賞与引当金の増減額(△は減少)	14	△66	382
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△60	△60	△62
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	18	△111	30
役員株式給付引当金の増減額(△は減少)	-	-	36
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	18	11	△1
受取利息及び受取配当金	△180	△219	△308
支払利息	233	219	234
有形固定資産売却・除却損益(△は益)	37	33	127
減損損失	167	-	3,756
関係会社株式売却損益(△は益)	△2,156	-	-
事業譲渡損益(△は益)	-	△170	-
売上債権の増減額(△は増加)	△206	835	△673
たな卸資産の増減額(△は増加)	△782	710	677
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△32	△28	60
仕入債務の増減額(△は減少)	352	△167	△61
その他の流動負債の増減額(△は減少)	493	△62	843
その他	△40	△72	△76
小計	11,152	12,701	14,526
利息及び配当金の受取額	178	212	316
利息の支払額	△235	△217	△211
法人税等の支払額	△2,173	△3,105	△1,938
法人税等の還付額	-	-	286
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,923	9,592	12,979
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>			
有形固定資産の取得による支出	△3,489	△4,343	△4,476
有形固定資産の売却による収入	37	222	1,119
無形固定資産の取得による支出	△705	△1,125	△1,956
投資有価証券の取得による支出	△22	△470	△21
投資有価証券の売却による収入	-	110	3,422
長期貸付金の回収による収入	0	1	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	3,890	-	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△649	△3,732	△211
事業譲渡による収入	-	170	-
その他	△73	△594	△17
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,010	△9,763	△2,141
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>			
短期借入金の純増減額(△は減少)	△1,715	418	△624
長期借入れによる収入	4,460	900	2,248
長期借入金の返済による支出	△3,425	△3,219	△2,887
社債の発行による収入	-	11,520	1,821
社債の償還による支出	△1,202	△6,630	△902
自己株式の売却による収入	0	0	1
自己株式の取得による支出	△488	△510	△3,851
配当金の支払額	△1,201	△1,406	△1,380
非支配株主への配当金の支払額	△17	△22	△21
自己株式取得目的の金銭の信託の設定による支出	-	-	△1,037
その他	△116	△252	△206
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,706	796	△6,838
<b>現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	445	△149	△250
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	4,651	475	3,748
<b>現金及び現金同等物の期首残高</b>	7,923	12,575	13,050
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	12,575	13,050	16,799

ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人財の力

キッツグループのESG

データ編

# グループネットワーク

## 国内ネットワーク

### 株式会社キッツ

#### 本社

〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-0111(大代表)



### 販売拠点

#### 北海道支店

北海道営業所  
〒065-0014  
北海道札幌市東区北十四条東12-1-25  
TEL: (011)733-2225

#### 東北支店

東北営業所  
〒980-0811  
宮城県仙台市青葉区一番町2-7-17  
朝日生命仙台一番町ビル  
TEL: (022)224-5335

#### 北関東支店

北関東営業所  
〒331-0812  
埼玉県さいたま市北区宮原町3-306-1  
第2坂本ビル  
TEL: (048)651-5260

#### 新潟営業所

〒950-0912  
新潟県新潟市中央区南笹口1-1-54  
日生南笹口ビル  
TEL: (025)243-3122

#### 東京支社

東京第一営業所  
〒103-0027  
東京都中央区日本橋3-10-5  
オンワードパークビルディング  
TEL: (03)6836-1501

東京第二営業所  
〒103-0027  
東京都中央区日本橋3-10-5  
オンワードパークビルディング  
TEL: (03)6836-1501

千葉営業所  
〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1706

横浜営業所  
〒231-0033  
神奈川県横浜市中区長者町5-85  
三共横浜ビル  
TEL: (045)253-1095

空調計装営業所  
〒103-0027  
東京都中央区日本橋3-10-5  
オンワードパークビルディング  
TEL: (03)6836-1502

東京営業推進グループ  
〒103-0027  
東京都中央区日本橋3-10-5  
オンワードパークビルディング  
TEL: (03)6836-1503

特需グループ  
〒103-0027  
東京都中央区日本橋3-10-5  
オンワードパークビルディング  
TEL: (03)6836-1501

#### 中部支社

名古屋第一営業所  
〒451-0045  
愛知県名古屋市西区名駅3-9-37  
合人社名駅3ビル  
TEL: (052)562-1541

名古屋第二営業所  
〒451-0045  
愛知県名古屋市西区名駅3-9-37  
合人社名駅3ビル  
TEL: (052)562-1541

東海営業所  
〒420-0034  
静岡県静岡市葵区常磐町2-13-1  
住友生命静岡常磐町ビル  
TEL: (054)273-7337

北陸営業所  
〒939-8211  
富山県富山市二口町4-7-14 S・Fビル  
TEL: (076)492-4685

甲信営業所  
〒391-0012  
長野県茅野市金沢5125  
キッツ茅野工場内  
TEL: (0266)71-1441

#### 大阪支社

大阪第一営業所  
〒550-0013  
大阪府大阪市西区新町 1-34-15  
大阪グレンチェックビル  
TEL: (06)6541-1178

大阪第二営業所  
〒550-0013  
大阪府大阪市西区新町 1-34-15  
大阪グレンチェックビル  
TEL: (06)6533-1715

建築住設グループ  
〒550-0013  
大阪府大阪市西区新町 1-34-15  
大阪グレンチェックビル  
TEL: (06)6541-1357

空調計装営業所  
〒550-0013  
大阪府大阪市西区新町 1-34-15  
大阪グレンチェックビル  
TEL: (06)6533-0350

#### 中国支社

広島営業所  
〒730-0032  
広島県広島市中区立町2-27  
NBF広島立町ビル  
TEL: (082)248-5903

岡山営業所  
〒700-0903  
岡山県岡山市北区幸町8-29  
三井生命岡山ビル  
TEL: (086)226-1607

## 九州支店

### 九州営業所

〒812-0007  
福岡県福岡市博多区東比恵3-4-2  
Z・S福岡ビル  
TEL: (092)431-7877

## プロジェクト統括部

### プロジェクト第一営業所

〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1719

### プロジェクト第二営業所

〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1719

### プロジェクト第三営業所

〒550-0013  
大阪府大阪市西区新町1-34-15  
大阪グレンチェックビル  
TEL: (06)7636-1060

### 調節弁営業所

〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1773

## 給装営業部

### 給装第一営業所

〒190-0022  
東京都立川市錦町2-3-28  
アルプ立川ビル  
TEL: (042)595-9241

### 東北給装事務所

〒980-0811  
宮城県仙台市青葉区一番町2-7-17  
朝日生命仙台一番町ビル  
TEL: (022)224-5335

### 北関東事務所

〒331-0812  
埼玉県さいたま市北区宮原町3-306-1  
第2坂本ビル  
TEL: (048)651-5260

### 横浜事務所

〒231-0033  
神奈川県横浜市中区長者町5-85  
三共横浜ビル  
TEL: (045)253-1095

## 関西給装事務所

〒550-0013  
大阪府大阪市西区新町 1-34-15  
大阪グレンチェックビル  
TEL: (06)7636-1061

### 営業支援グループ

〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1760

## 海外業務部

〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1730

## プロダクトマネジメントセンター

### CLESTEC事業推進部

〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1765

## 生産拠点・研修所

### 工場

#### 長坂工場

〒408-8515  
山梨県北杜市長坂町長坂上条2040  
TEL: (0551)20-4100



#### 伊那工場

〒399-4496  
長野県伊那市東春近7130  
TEL: (0265)78-1111



## 茅野工場

〒391-0012  
長野県茅野市金沢5125  
TEL: (0266)82-0170



## 研修所

### キット研修センター

〒408-0041  
山梨県北杜市小淵沢町上笹尾篠原  
3332-1239  
TEL: (0551)36-3971

## キットグループ

### 東洋バルブ株式会社

〒103-0027  
東京都中央区日本橋3-10-5  
オンワードパークビルディング  
TEL: (03)6262-1652  
(各種バルブの仕入・販売)

### 株式会社清水合金製作所

〒522-0027  
滋賀県彦根市東沼波町928  
TEL: (0749)23-3131  
(水道用バルブの製造・販売)



### 株式会社キットエスシーティー

〒143-0016  
東京都大田区大森北1-5-1  
大森駅東口ビル  
TEL: (03)6404-2171  
(半導体製造設備用配管部材の製造・販売)



ステークホルダーの皆様へ

事業の概要と戦略

人材の力

キットグループのESG

データ編



三吉バルブ株式会社  
〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1734  
(建築設備用及び冷凍機用バルブの仕入・販売)

ワイケイブイ株式会社  
〒261-8577  
千葉県千葉市美浜区中瀬1-10-1  
TEL: (043)299-1773  
(自動調節弁及びその関連商品の製造・販売・サービス)

株式会社キッツエンジニアリングサービス  
〒275-0024  
千葉県習志野市茜浜1-7-59  
TEL: (047)452-0585  
(バルブのメンテナンスサービス)

株式会社キッツマイクロフィルター  
〒392-0012  
長野県諏訪市四賀2983  
TEL: (0266)52-0002  
(ろ過用機器及びその付属品の製造・販売)



株式会社キッツメタルワークス  
〒391-8555  
長野県茅野市宮川小早川7377  
TEL: (0266)79-3030  
(伸銅品及びその加工品の製造・販売)



北東技研工業株式会社  
〒408-0112  
山梨県北杜市須玉町若神子4601  
TEL: (0551)42-5151  
(金属加工品の製造・販売)



株式会社ホテル紅や  
〒392-8577  
長野県諏訪市湖岸通り2-7-21  
TEL: (0266)57-1111  
(ホテル及びレストランの経営)



## 海外ネットワーク

### 株式会社キッツ 駐在員事務所

#### インド

インド駐在員事務所  
KITZ Corporation  
(India Liaison Office)  
805 Meadows, Sahar Plaza, Off  
Andheri Kurla Road, Andheri East,  
Mumbai 400 059, India  
TEL: +91-22-40154202

#### U.A.E.

ドバイ駐在員事務所  
KITZ Corporation  
(Dubai Liaison Office)  
6EA501 Dubai Airport Free Zone,  
P.O. Box 293545, Dubai-U.A.E.  
TEL: +971-4-701-7524

### キッツグループ

#### 韓国

KITZ Corporation of Korea  
10th Floor, Seoul Finance Center,  
136, Sejong-daero, Jung-gu, Seoul,  
04520, Korea  
TEL: +82-2-6959-2450  
(各種バルブの販売)

Filcore Co., Ltd.  
#3Ba-211, Shihwa Industrial Complex,  
2185-2 Jeongwang-dong, Siheung-si,  
Gyeonggi-do, 15116, Korea  
TEL: +82-31-433-3988  
(浄水器用、アルカリイオン水器用及びトイレ  
ビデオ用フィルターの製造・販売)



#### シンガポール

KITZ Corporation of Asia Pacific Pte. Ltd.  
No.22 Pioneer Crescent, #03-06  
West Park BizCentral Singapore  
628556  
TEL: +65-6339-0350  
(各種バルブの仕入・販売)

KITZ Valve & Actuation Singapore Pte. Ltd.  
No.22 Pioneer Crescent, #03-06  
West Park BizCentral Singapore  
628556  
TEL: +65-6861-1833  
(各種バルブの仕入・販売・メンテナンス)

#### タイ

KITZ Valve & Actuation (Thailand) Co., Ltd.  
388 Exchange Tower, 17th Floor,  
Unit 1701-1, Sukhumvit Road,  
Klongtoey Sub-district, Klongtoey  
District, Bangkok 10110, Thailand  
TEL: +66-2-663-4700  
(各種バルブの仕入・販売)

**KITZ (Thailand) Ltd.**  
426 Moo17 Bangna-Trad Rd.,  
T.Bangsaothong, A. Bangsaothong,  
Samutprakarn 10570, Thailand  
TEL: +66-2-315-3129~32  
(青銅・黄銅製バルブ及びバタフライバルブ  
の製造・販売)



#### 台湾

**KITZ Corporation of Taiwan**  
5-26 East Street, N.E.P.Z.,  
Kaohsiung, Taiwan, R.O.C.  
TEL: +886-7-361-1236  
(ステンレス鋼・鋳鋼製バルブ及び継手の  
製造・販売)



#### 中国

**KITZ Corporation of Kunshan**  
No.15 Taihu South Road Economic  
and Technology Development Zone,  
Kunshan, Jiangsu Province, P.R.  
China, 215300  
TEL: +86-512-5763-8600  
(ステンレス鋼製バルブの製造・販売)



**KITZ Corporation of Jiangsu Kunshan**  
No.188, Zhongyang Road, B Zone,  
Kunshan Comprehensive Free Trade  
Zone, Jiangsu Province, P.R. China,  
215300  
TEL: +86-512-5771-6078  
(鋳鋼製バルブの製造・販売)



**KITZ Corporation of Shanghai**  
Room 1701-1704, International  
Corporate City,  
No.3000 North ZhongShan Rd.,  
PuTuo District, Shanghai, P.R. China,  
200063  
TEL: +86-21-6439-1249  
(各種バルブの仕入・販売)

**KITZ Corporation of Lianyungang**  
No.16 Yun Yang Road, Lianyungang  
Economic and Technical Development  
Zone, Jiangsu Province, P.R. China,  
222047  
TEL: +86-518-8236-6061  
(鋳鋼製バルブの製造・販売)



**KITZ SCT Corporation of Kunshan**  
8-3, No.3 Road, Export Processing A  
Zone, Kunshan, Jiangsu, P.R. China,  
215300  
TEL: +86-512-5735-0700  
(半導体製造設備用配管部材の製造・販売)



#### インド

**Micro Pneumatics Pvt. Ltd.**  
Plot No.133-134, Vasai Municipal  
Industrial Area, Umela Phata, Papdy,  
Vasai Road (West) - 401 207, Dist.  
Palghar, Maharashtra, India  
TEL: +91- 250-2320458  
(工業(薬品、食品、石油)用自動ボールバ  
ルブ及びバタフライバルブの製造・販売)



#### アメリカ

**KITZ Corporation of America**  
10750 Corporate Drive, Stafford,  
Texas 77477, U.S.A.  
TEL: +1-281-491-7333  
(各種バルブの仕入・販売)

**KITZ SCT America Corporation**  
5201 Great America Parkway, Suite  
238, Santa Clara, California 95054,  
U.S.A.  
TEL: +1-408-747-5546  
(半導体製造設備用配管部材の仕入・販売)

#### ブラジル

**Metalúrgica Golden Art's Ltda.**  
Rua Getúlio Vargas 496, Bairro  
Renovação, Veranópolis, Rio Grande  
do Sul, Brazil, 95330-000  
TEL: +55-54-3441-8900  
(工業用ボールバルブの製造・販売)



#### スペイン

**KITZ Corporation of Europe, S.A.**  
Ramón Viñas, 8 08930 Sant Adrià de  
Besòs, Barcelona, Spain  
TEL: +34-93-462-14-08  
(鋳鋼製・ステンレス鋼製ボールバルブの  
製造・販売)



#### ドイツ

**KITZ Europe GmbH**  
Siemensstraße 1, 61130 Nidderau,  
Germany  
TEL: +49-6187-928-100  
(欧州全域のマーケティング・販売)

**Perrin GmbH**  
Siemensstraße 1, 61130 Nidderau,  
Germany  
TEL: +49-6187-928-0  
(メタルシートボールバルブ等の製造・販売)



# 会社概要 / 株式情報

## 会社概要 (2017年3月31日現在)

商号	株式会社 <b>キッツ</b>
英文商号	<b>KITZ CORPORATION</b>
本社	〒261-8577 千葉県千葉市美浜区中瀬一丁目10番1(幕張新都心) TEL: (043) 299-0111(大代表)
URL	http://www.kitz.co.jp/
設立	1951年1月26日
資本金	21,207,084,670円
決算期	3月31日
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード:6498)
社員数	1,258名(単体)
事業内容	バルブ及びその他の流体制御用機器並びにその付属品の製造・販売
取引銀行	みずほ銀行 三井住友銀行 三菱UFJ信託銀行 三菱東京UFJ銀行 八十二銀行 山梨中央銀行 千葉銀行

## 株式情報 (2017年3月31日現在)

発行可能株式総数	400,000,000 株
発行済株式の総数	101,734,647 株 (注)左記の発行済株式の総数には、当社が2017年3月31日に保有する自己株式8,661,864株を含めておりません。
株主数	9,715名
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会議決権 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日 その他必要ある場合は、あらかじめ公告いたします。
公告掲載方法	電子公告 ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。公告掲載URL(http://www.kitz.co.jp/)
単元株式数	100株

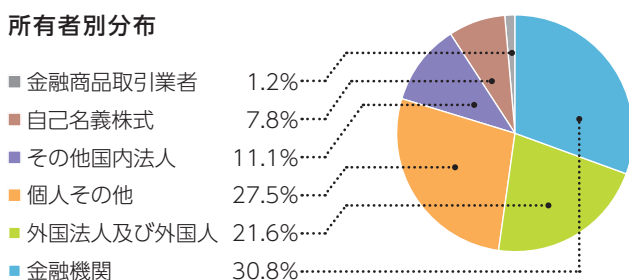
## 大株主(上位10位)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	9,547	9.38
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	4,665	4.59
日本生命保険相互会社	4,374	4.30
北沢会持株会	4,157	4.09
公益財団法人北澤育英会	3,411	3.35
住友生命保険相互会社	3,208	3.15
キッツ取引先持株会	3,099	3.05
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	2,838	2.79
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	2,828	2.78
株式会社みずほ銀行	2,553	2.51

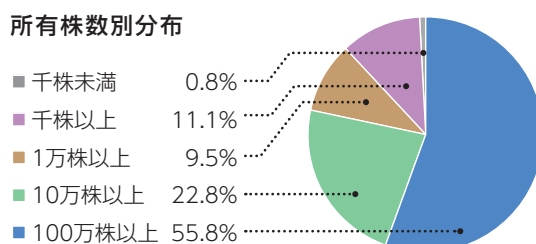
(注) 1. 当社は、2017年3月31日現在、自己株式8,661千株を保有しており、上記大株主から除外しております。また、持株比率は、発行済株式の総数から自己株式を除いて計算しております。なお、当社は「役員報酬BIP信託」を採用しており、日本マスタートラスト信託銀行(株)が当社株式344千株を保有しておりますが、当該自己株式には含めておりません。

2. 上記の持株数には、信託業務に係る株式を次の通り含んでおります。  
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) 9,547千株  
日本マスタートラスト信託銀行(株) 2,838千株  
3. 日本生命保険(相)の持株数には、特別勘定年金口71千株を含んでおります。  
4. 住友生命保険(相)の持株数には、変額口35千株及び特別勘定23千株を含んでおります。

## 所有者別分布



## 所有株数別分布





## 東京ドーム、東京駅等に広告看板を設置

知名度向上に向けた取り組みの一つとして、東京ドーム、JR東京駅構内、JR海浜幕張駅構内に企業広告看板を設置。2017年度に「株式会社キッツ」への社名変更25周年を迎えるにあたり、首都圏を中心とした企業PRを展開しています。



東京ドームレフトポール上段壁面(2016年6月設置)



JR東京駅構内 京八通路(2017年1月設置)



JR海浜幕張駅構内(2016年12月設置)

## キッツウェブサイトのご案内



<http://www.kitz.co.jp/>

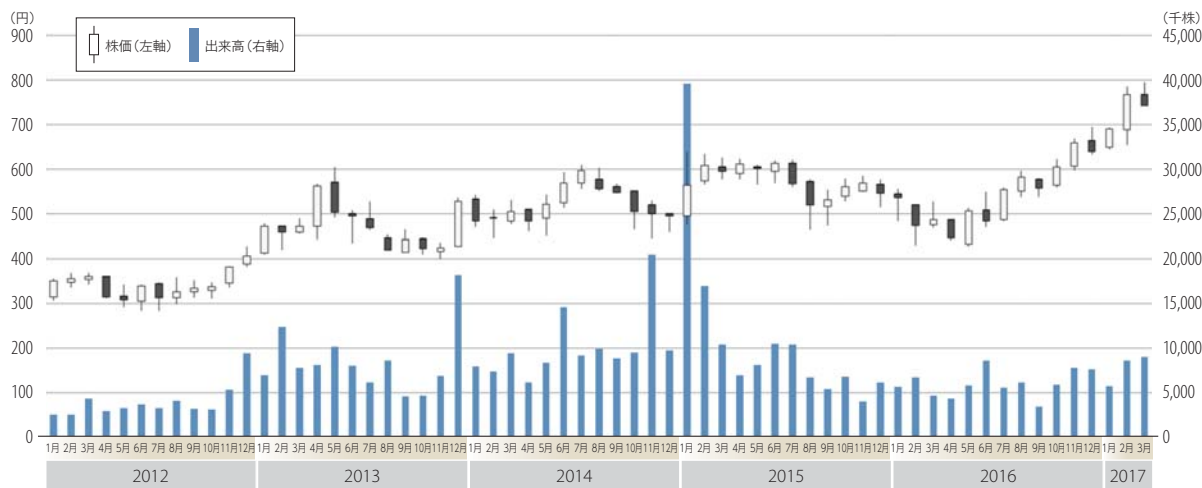


<http://www.kitz.co.jp/sp/>

メインメニューを大きなボタンで表示することによりスマートフォンで閲覧しやすくなり、より便利にご利用いただけます。



## 株価情報



**KITZ**